

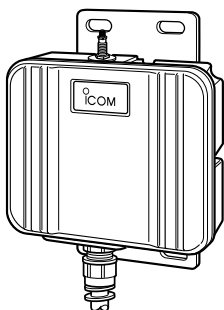
WAVEMASTER[®]

WIRELESS LAN BRIDGE

SB-510 SB-510EA

IEEE802.3af規格PoE専用

SB-510EA(下図)を使用するときは、専用の外部アンテナ(弊社別売品)が必要です。



- 1 本製品について
- 2 クイック導入ガイド
- 3 設置のしかた
- 4 その他の基本設定
- 5 設定メニューについて
- 6 保守について
- 7 ご参考に

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、IEEE802.11gとIEEE802.11bの2.4GHz帯無線LAN規格に対応し、異なる有線LANどうしを最高54Mbpsの無線LANでブリッジ接続するビル間通信ユニットです。

イーサネット電源供給ユニットを付属していますので、近くに電源がない場所にも設置できます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

※本製品が対応する無線LAN規格は、以下の通りです。

IEEE802.11b : 11Mbps(2.4GHz帯)

IEEE802.11g : 54Mbps(2.4GHz帯)

※[IEEE802.11g]規格は、[IEEE802.11b]規格と互換性があります。

※[IEEE802.11]規格(ch14)には対応していません。

※SB-120、SB-150、SB-1100、SB-2200の弊社製無線LANユニットは、本製品と通信できません。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icomは、アイコム株式会社の登録商標です。WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

Netscapeは、Netscape Communications Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Atheros、Total 802.11、Super Gロゴは、Atheros Communications, Inc. の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本製品の概要について

- ◎無線ブリッジ簡易設定機能を搭載していますので、通信相手の登録が簡単です。
- ◎本製品の電源供給は、PoE機能に対応しています。
付属のイーサネット電源供給ユニット(SA-3)を使用して本製品に電源を供給します。
- ◎SB-510とSB-510EAの本体(SA-3を除く)は、樹脂成形の防水構造JIS保護等級4相当(防まつ形)を採用していますので、屋内外を問わず設置が可能です。
- ◎ルーティング機能を設定すると、無線LANと有線LAN間をルーティングできます。
- ◎ルーティングモードで使用する本製品に、VLAN機能を設定することで、本製品と同じIDに設定された有線LANだけが無線ブリッジ接続できます。
- ◎スパンニングツリー機能を設定することにより、ネットワークループによるネットワーク障害を防止できます。
- ◎無線LANセキュリティーには、無線通信データの暗号化[WEP(RC4)、OCB AES]機能を搭載しています。
- ◎有線LANは、10BASE-T/100BASE-TX(自動切り替え)に対応しています。
- ◎通信速度は、通信状況に応じて、「自動」、または速度を固定できます。
- ◎設定は、すべてWWWブラウザから行えます。
- ◎[IEEE802.11g(54Mbps)]規格の無線LANには、地上波デジタルテレビジョン放送と同じ変調(OFDM)方式を採用していますので、マルチパスによる影響を受けにくく、高速で安定性に優れています。
- ◎ネットワーク管理機能にはSNMPをサポートしています。
- ◎技術基準適合証明を取得していますので、無線局の免許は不要です。
- ◎本製品は、Atheros製チップセットを搭載しています。
「Super G(Atheros Communications社の無線LAN高速化技術)」を使用した通信に対応しています。



情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

はじめに

取り扱い上のご注意

- ◎動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかりと接続して、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。
- ◎パソコンやその他の周辺機器の取り扱いは、それぞれに付属の取扱説明書に記載する内容にしたがってください。
- ◎本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、妨害を受けている機器からできるだけ本製品を離して設置してください。
- ◎本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ◎本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。
- ◎本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。
- ◎本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

- 「 」表記：オペレーションシステム(OS)の各ウィンドウ(画面)、ユーティリティ、設定画面の各メニューとそのメニューに属する設定画面の名称を(「 」)で囲んで表記します。
- []表記：タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名、各設定画面の設定項目名を([])で囲んで表記します。
- < > 表記：ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を(< >)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® XP Professional、Microsoft® Windows® XP Home Editionは、Windows XPと表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professionalは、Windows 2000と表記します。

Microsoft® Windows® Millennium Editionは、Windows Meと表記します。

Microsoft® Windows® 98 Second Editionは、Windows 98 SEと表記します。

※本書は、Ver1.01のファームウェアを使用して説明しています。

※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

無線LANの電波法についてのご注意

- 本製品の無線部は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。
したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- 本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。
また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- 医療機器の近くで本製品を使用しないでください。
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

本製品で無線通信を行うときは、次のことがらに注意してご使用ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社

サービス窓口 06-6792-4949

(9:00~12:00、13:00~17:00)

■ **2.4OF-DS4** 表記の意味について

「2.4」：2.4GHz帯を使用する無線設備を示す。

「OF-DS」：変調方式を示す。

「4」：想定される干渉距離が40m以下であることを示す。

「■■■」：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能なことを示す。

はじめに

付属のCDについて

本製品のCDは、PC/AT互換機でご使用になれます。
本製品の「Firm Utility」が収められています。

■ 内容について

「Firm Utility(Windows用)」(☞6-5章)

本製品の全設定内容の初期化(☞6-3章)やバージョンアップ(☞6-4章)に使用します。

■ Auto Run機能について

本製品のCDは、ご使用のPC/AT互換機のCDドライブに挿入すると、自動的にメニュー画面を表示するようになっています。

■ 対応OSについて

本製品のCDに収められた「Firm Utility」は、以下のOSでご使用ください。

Windows XP、Windows 2000、Windows Me、Windows 98 SE、Windows 98

■ Utilityを起動するには

1. 本製品のCDをご使用のCDドライブに挿入します。
 - CDドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
2. <ファームウェア ユーティリティ>をクリックします。
 - 「Firm Utility」が起動します。



【お知らせ】

無線LAN製品をご使用になるときは、下記のアドレスにアクセスしていただき、「無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意」をご覧ください。

アドレス：http://wavemaster.icom.jp/security_wirelesslan.htm

ユーザー登録について

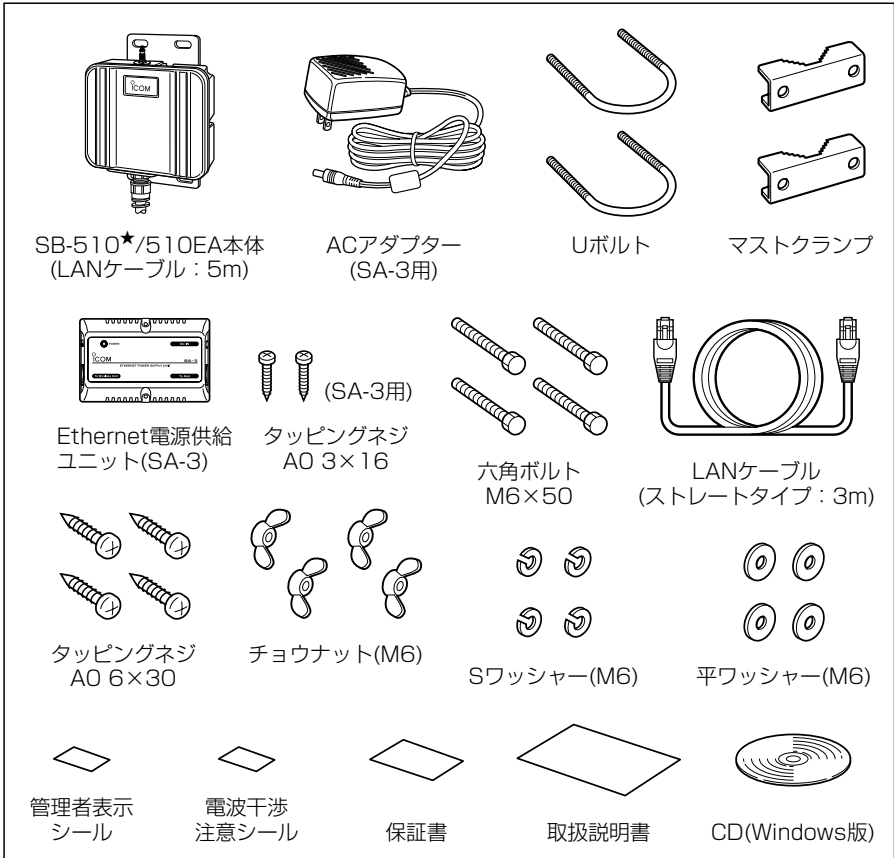
本製品のユーザー登録は、アイコムホームページで行っています。

インターネットから、「<http://www.icom.co.jp/>」にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォームにしたがって必要事項をご記入ください。

ご登録いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

■ 梱包内容の確認

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。



★SB-510には、アンテナコネクタはありません。

管理者表示シールの記載と表示場所について

- 運用者や連絡先など、指示されている内容を記載してください。
 - 本製品の設置場所に近く、確認しやすい場所に貼り付けてください。
- △注意：通信の妨げになることがありますので、このシールをSB-510EAに接続された外部アンテナ(電波放射部)、SB-510の正面(電波放射面)に貼らないでください。

別売品について

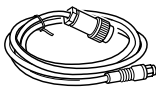
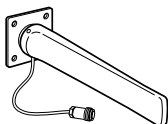
■ 外部アンテナ：SB-510EA用

SB-510EAのアンテナは、ご使用になる環境に応じて
選択できるよう、次のものを用意しています。

(2004年8月現在)

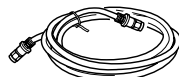
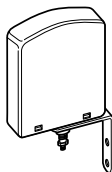
【指向性アンテナ】

AH-150(同軸ケーブル付属)



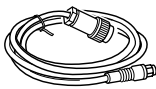
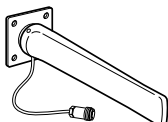
5D-SFA : 12m

AH-104(同軸ケーブル付属)



同軸ケーブル(3m)

AH-150S(同軸ケーブル付属)



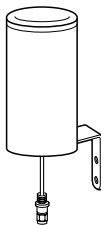
3.5D-FAV : 7m

AH-152



固定用プレート

AH-154



【無指向性アンテナ】

AH-151/AH-153

図のアンテナは、
AH-151です。

サドルブラケット



【電波法上のご注意】

- ◎ここに記載の外部アンテナで本製品をお使いいただけるよう、技術基準適合証明を取得していますので、それ以外のアンテナを使用したり、本製品の同軸ケーブルや付属の接続用同軸ケーブルを加工や延長して本製品に使用すると、電波法違反になります。
- ◎無線LANの国内規格(ARIB STD-T66)により、AH-152が接続された本製品を複数台導入する場合、本製品どうしの設置間隔を40m以上はなして設置してください。

※外部アンテナとの組み合わせかたや伝送距離については、本書3章をご覧ください。

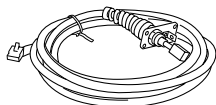
※各アンテナの設置のしかたについては、各種アンテナに付属の説明書をご覧ください。

(※次ページにつづく)

■ 延長用LANケーブル

SB-510/SB-510EAのLANケーブル(5m)と取り替えることで、20mまで延長できます。

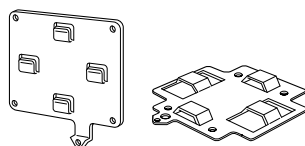
OPC-1222



■ 壁面取付プレート

SB-510/SB-510EAを壁面に固定した壁面プレートに引っ掛けて固定できます。

MB-91

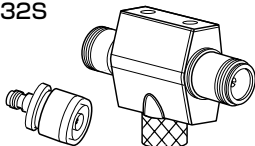


壁面プレート ユニットプレート

■ 同軸避雷器

落雷対策用として、SB-510EAのアンテナコネクターと、外部アンテナ(弊社別売品)のあいだに接続します。

FL-332S

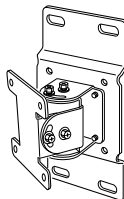


■ 仰角金具

SB-510本体の取り付け角度を上下および左右に変更する金具です。

MB-89

調整範囲
上30°/下30°
左30°/右30°



※取り付けかたについては、各種別売品に付属の取扱説明書をご覧ください。

もくじ

はじめに	i
標準構成品	vi
別売品について	vii
もくじ	ix
安全上のご注意(必ずお読みください。)	xi

第1章 本製品について 1

1-1.各部の名称と機能	2
1-2.本製品のおもな機能	4

第2章 クイック導入ガイド 9

Step1.設定に使うパソコンの用意	10
Step2.固定IPアドレスをパソコンに設定する	11
Step3.設定に使うパソコンの接続	13
Step4.設定画面へのアクセスを確認する	14
Step5.本体IPアドレスを変更する	15
Step6.「ビル間通信(無線ブリッジ)」を設定する	16
Step7.ビル間通信を確認する	18

第3章 設置のしかた 19

3-1.組み合わせ設置例	20
3-2.本体をマストに固定するには	23
3-3.壁面に固定するには	25
3-4.設置と接続のご注意	25
3-5.指向特性について	26
3-6.通信距離について	26
3-7.長距離通信でご使用のかたへ	27

第4章 その他の基本設定 ————— 29

4-1.無線LANの暗号化を設定するには	30
4-2.設定画面へのアクセスを制限するには	36
4-3.本製品のDHCPサーバ機能を使うには	37
4-4.無線LANと有線LAN間をルーティングするには	38
4-5.スパンニングツリー機能を使用するには	39

第5章 設定メニューについて ————— 43

5-1.設定画面の名称と機能	44
5-2.「ネットワーク設定」メニュー	45
5-3.「無線LAN設定」メニュー	57
5-4.「システム設定」メニュー	66
5-5.「情報表示」メニュー	69
5-6.「メンテナンス」メニュー	70

第6章 保守について ————— 73

6-1.設定内容の確認または保存	74
6-2.保存された設定の書き込み	76
6-3.設定を出荷時の状態に戻す	77
6-4.ファームウェアをバージョンアップする	80
6-5.「Firm Utility」の使いかた	82
6-6.故障のときは	84

第7章 ご参考に ————— 85

7-1.Telnetで接続するには	86
7-2.ルーティングの設定例	88
7-3.設定画面の構成について	90
7-4.設定項目の初期値一覧	92
7-5.機能一覧	93
7-6.定格	94
7-7.用語解説	96

安全上のご注意

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ 本製品(SA-3を含む)について

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎強度の不足する場所には、設置しないでください。
振動や風などの影響を受けて落下し、けがや故障の原因になります。
- ◎人の通行をさまたげる場所には、設置しないでください。
本製品に接触したり、倒れたりしてけがの原因になります。
- ◎送電線や配電線の近くには、設置しないでください。
本製品のケーブルなどが送電線や配電線に接触して、ショートや発熱により感電や火災の原因になります。
- ◎雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、電源コードには、絶対にさわらないでください。
感電事故の原因になります。
- ◎指定以外の付属品、および別売品は使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎弊社指定以外の無線LAN機器には、SA-3を接続しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎通気口をふさがないでください。
発熱などにより、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎万一、煙が出ている、変なおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに、SA-3に接続するACアダプターとその他のケーブル類を取り外してください。
煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

■ 本製品(SA-3を含む)について(つづき)

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎本製品を分解しないでください。
けが、感電、故障、電波障害の原因になることがあります。
- ◎足場の不安定なところで、設置工事をしないでください。
倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- ◎落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
- ◎長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するSA-3のACアダプターを取り外してください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。
- ◎ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎強度の不足する部材(アンテナマスト、取り付け金具など)や腐食しやすい部材は使用しないでください。
本製品が落下したりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎近くに雷が発生したときは、SA-3のACアダプターをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。
ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。
火災、感電の原因になることがあります。
- ◎清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段は柔らかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

安全上のご注意

■ ACアダプターについて(SA-3用)



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- ◎その他の無線LAN機器に使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎抜き差しするときは、必ずDCコネクタやACアダプター本体を持って行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ぬれた手でACアダプターや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎水などでぬれやすい場所で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ACアダプターは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
差し込みが不十分な場合、火災、感電の原因になります。
- ◎電源コードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ACアダプターは、タコ足配線しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ACアダプターの金属部分、およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。
そのまま使うと、火災の原因になります。
- ◎電源コードが傷ついたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

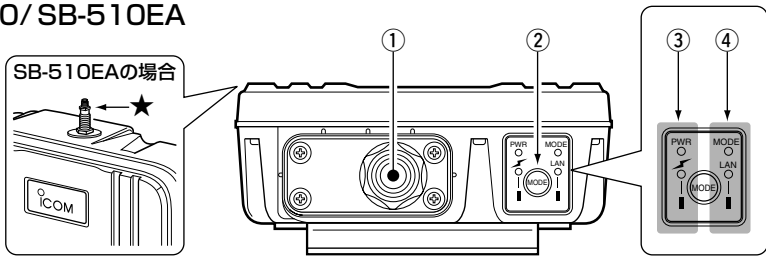
この章では、
本製品のおもな機能などについて説明しています。

1-1.各部の名称と機能	2
■ SB-510/SB-510EA	2
■ SA-3	3
1-2.本製品のおもな機能	4
■ ビル間通信機能について	4
■ 「Super G」機能について	4
■ 無線LANの暗号化機能について	5
■ PoE機能について	5
■ スパニングツリー機能について	6
■ ルーティング機能について	6
■ VLAN機能について	7

1 本製品について

1-1. 各部の名称と機能

■ SB-510/SB-510EA



① LANケーブル ………

SA-3の[To Wireless Unit]ポートと接続します。

※電源供給は、SA-3(※P3)、または[IEEE802.3af]対応のHUBを使用します。

② <MODE>ボタン ……

「設定初期化」モードへの移行ボタンです。(※6-3章)

※本製品に設定されているIPアドレスが不明なとき使用します。

③ [PWR] (緑)/

[] (赤) ランプ …

[PWR] (緑) ランプ

点灯：本製品に電源が供給されているとき

◎[MODE]ランプと同時点滅：「設定初期化」モード

◎[MODE]ランプと交互点滅：「Firm Utility使用」モード

[] (赤) ランプ

点灯：本製品とビル間通信を確立したとき

消灯：通信相手が存在しない、または1～2分間以上、ビル間通信しない状態がつづいたとき

④ [MODE] (緑)/

[LAN] (赤) ランプ …

[MODE] (緑) ランプ

点滅：スパンニングツリー機能で経路を作成中のとき

◎[PWR]ランプと同時点滅：「設定初期化」モード

◎[PWR]ランプと交互点滅：「Firm Utility使用」モード

[LAN] (赤) ランプ

点灯：有線LANへの接続が正常なとき

消灯：LANケーブルが未接続のとき

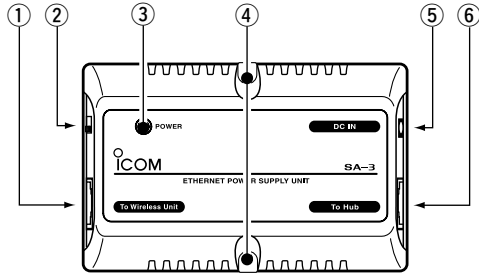
点滅：データを送受信しているとき

★ アンテナコネクター…

SB-510EAの外部アンテナ(弊社別売品)を接続します。

※SB-510は、アンテナを本体に内蔵しています。

■ SA-3



① [To Wireless Unit]
ポート……………

SB-510、またはSB-510EAのLANケーブルと接続します。

② [極性反転]スイッチ …

[To Wireless Unit]ポートの極性を反転させるスイッチです。

SB-510/SB-510EAの[LAN](赤)ランプが点灯する位置に切り替えます。

③ [PWR](黄)ランプ …

点灯：SB-510、またはSB-510EAと接続したとき
点滅：SB-510、またはSB-510EAと未接続のとき

④ 壁面固定用ネジ穴……

付属のタッピングネジ(AO 3×16：2本)でSA-3を固定するときの穴です。

⑤ [DC IN]ポート………

付属のACアダプターと接続します。

⑥ [To Hub]ポート ……

付属のLANケーブルで、有線LANと接続します。

1 本製品について

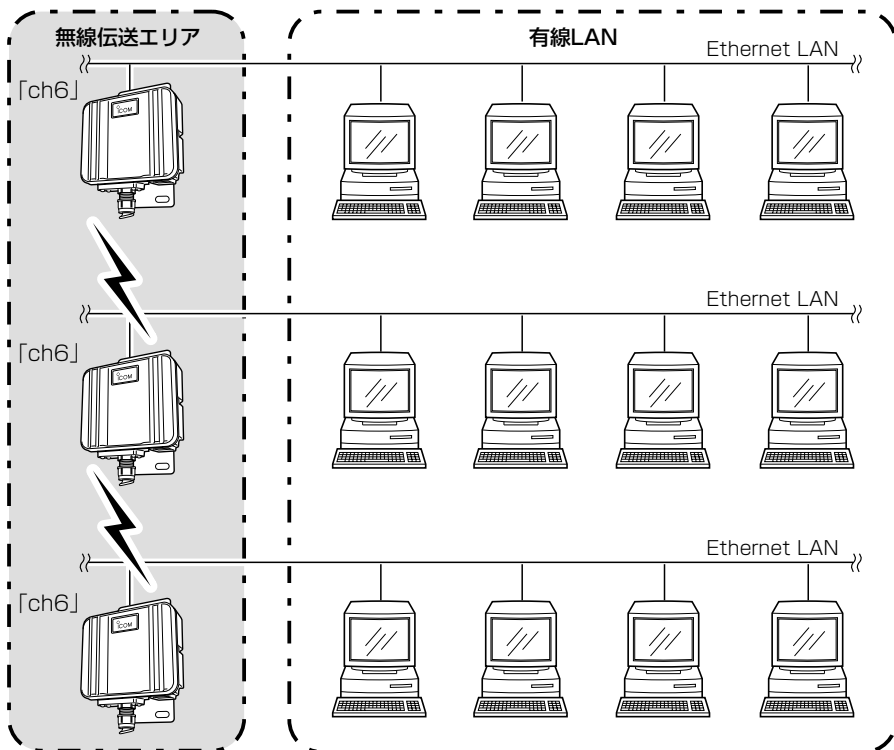
1-2. 本製品のおもな機能

■ビル間通信機能について

対向する本製品どうしが、無線ブリッジ接続することで、お互いの有線LANを無線でブリッジ接続するネットワーク形態です。

※同時に使える本製品の台数は、最大256台までですが、10台以下となることをお勧めします。

※説明には、SB-510を使用し、SA-3を省略しています。



256台まで収容可能

[1024台一本製品の使用台数]まで収容可能

※SB-120、SB-150、SB-1100、SB-2200の弊社製無線LANユニットは、本製品と通信できません。

■「Super G」機能について

米国Atheros Communications社が開発した、独自の無線LAN高速化技術です。

この機能を使用する場合は、通信を行う相手間で同じ設定にしてください。

設定が異なるときは、通信できません。(※P59)

■ 無線LANの暗号化機能について

本製品は、「WEP(RC4)」方式と「OCB AES」方式の暗号化機能を搭載しています。無線ネットワーク間で送受信するデータを、設定された鍵(キー)を元に暗号化して安全性を確保します。

通信相手と暗号化方式や鍵(キー)の設定が異なるときは、通信できません。

「WEP(RC4)」と「OCB AES」は、互換性がありません。

これらの暗号化方式について詳しくは、本書61ページをご覧ください。

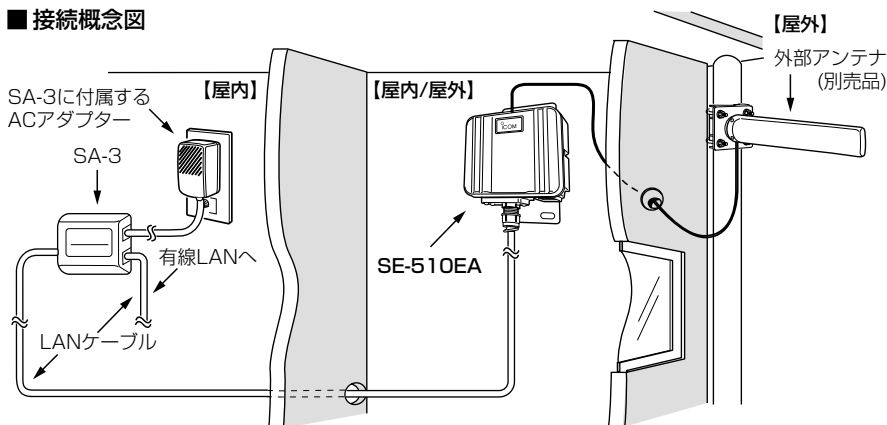
■ PoE機能について

イーサネット電源供給ユニット(SA-3)を使用して本製品に電源を供給する機能です。

本製品に直接電源ケーブルを接続する必要がありませんので、設置場所の近くにコンセントやIEEE802.3af準拠のHUBがないような場所でも設置できます。

※802.3af対応のHUBでご使用になる場合は、本製品に付属のACアダプターやSA-3を接続する必要はありません。

■ 接続概念図



※説明には、SB-510EAを使用しています。

△ SA-3の設置場所についてのご注意

本製品の通気口をふさいだり、極端に狭い場所や壁とのすき間など、風通しの悪い場所に設置しないでください。

強力な磁界(電磁波)や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。

発熱して故障の原因になることがあります。

1 本製品について

1-2. 本製品のおもな機能(つづき)

■ スパニングツリー機能について

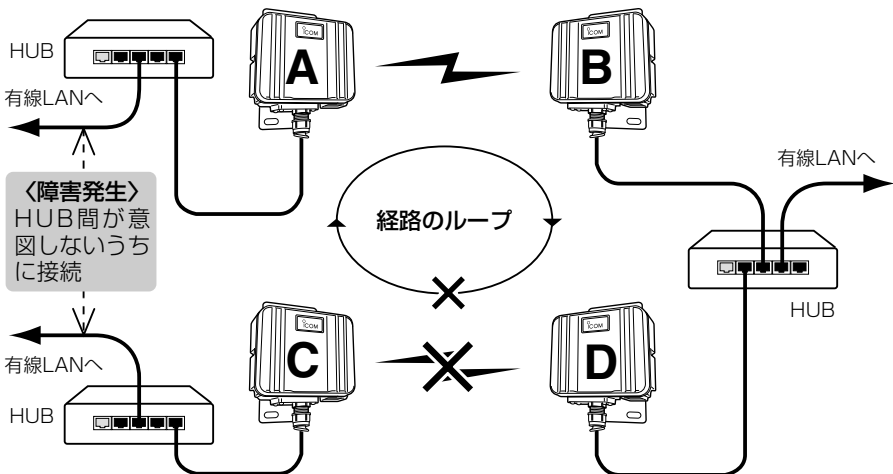
経路のループを検出し、パケットが無限に循環するのを回避して、最適な経路を作成する機能です。

下記のネットワーク例で、スパニングツリー機能を本製品(図：A～D)に設定した場合、有線LANどうしの意図しない接続(図：A-C間)が起こったとき、経路のループを検出して重複する経路のうち優先度の低い方(例、図：C-D間)を遮断します。

経路を遮断することで、ネットワークの正常な稼働が保たれます。

スパニングツリー機能の設定例などについて詳しくは、4-5章をご覧ください。

※スパニングツリー機能は、本製品すべて(図：A～D)に設定する必要があります。

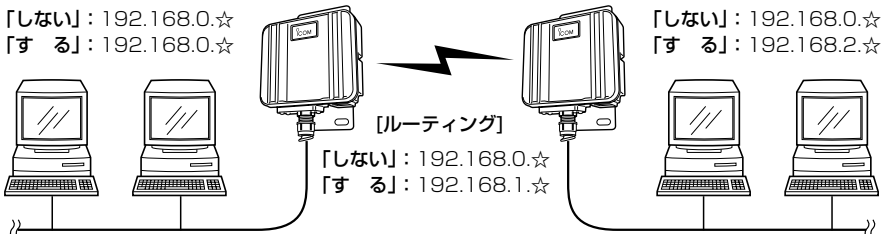


※説明には、SB-510を使用し、SA-3を省略しています。

■ ルーティング機能について

ルーティングモードを使用すると、無線LANと有線LANのネットワークグループを別々に構成でき、それらのネットワークグループ間をルーティングできます。(※4-4章)

※下記の図は、ルーティングモードを使用しない場合(上段)と、使用する場合(下段)の例を示しています。



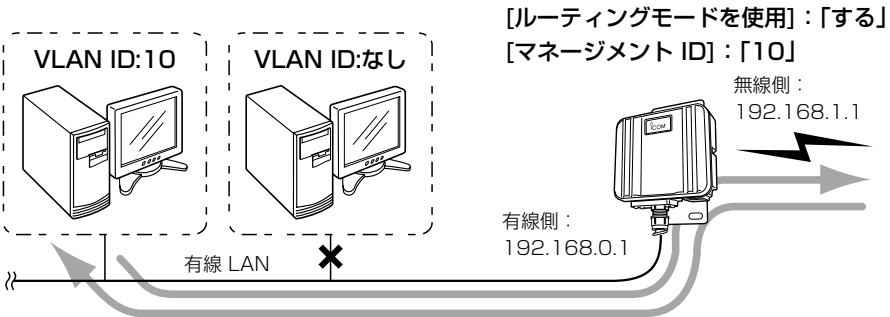
※IPアドレスの「ホスト部」は、☆で表記しています。
説明にはSB-510を使用し、SA-3は省略しています。

■ VLAN機能について

◎下記の図で示すようなルーティングモード(☞4-4章)を使用する本製品に、VLAN機能を設定した場合、本製品の[マネージメントID](例：10)と同じ番号の[VLAN ID](例：10)が設定された有線LANだけを無線ブリッジ接続する機能です。

なお、本製品の設定画面へのアクセスについては、本製品と同じ[マネージメントID](例：10)に設定された有線LANだけに制限されますのでご注意ください。

※本製品に接続された有線LANがVLAN機能を使用しないネットワークや、本製品の[マネージメントID]と異なる[VLAN ID]が設定された有線LANは、無線ブリッジ接続された相手側の有線LANと通信できません。



※説明には、SB-510を使用し、SA-3を省略しています。

◎ルーティングモード(☞4-4章)を使用しない本製品に、VLAN機能を設定した場合は、VLAN IDの有無に関係なく、すべてのパケットが無線ブリッジ接続されます。

なお、本製品の設定画面へのアクセスだけは、本製品と同じ[マネージメントID]に設定された有線LANだけに制限されますのでご注意ください。

◎同じ[マネージメントID]で使用するネットワークグループ中に管理者を置く場合は、本書4-2章に記載の方法を併せて使用できます。



この章では、
本製品をご使用いただくために必要な基本設定について、その手順を説明しています。
Step1.～Step7.の手順にしたがって設定後、本書3章を参考に設置してください。
設置後、本書4章を参考に詳細な設定をしてください。

Step1.設定に使うパソコンの用意	10
■ ノートブックタイプの場合	10
■ デスクトップタイプの場合	10
Step2.固定IPアドレスをパソコンに設定する	11
Step3.設定に使うパソコンの接続	13
Step4.設定画面へのアクセスを確認する	14
Step5.本製品のIPアドレスを変更する	15
Step6.「ビル間通信(無線ブリッジ)」を設定する	16
Step7.ビル間通信を確認する	18

2 クイック導入ガイド

Step1. >2.>3.>4.>5.>6.>7.

Step1. 設定に使うパソコンの用意

本製品の出荷時や全設定を初期化した場合は、有線LANと接続できるパソコンから本製品を設定します。

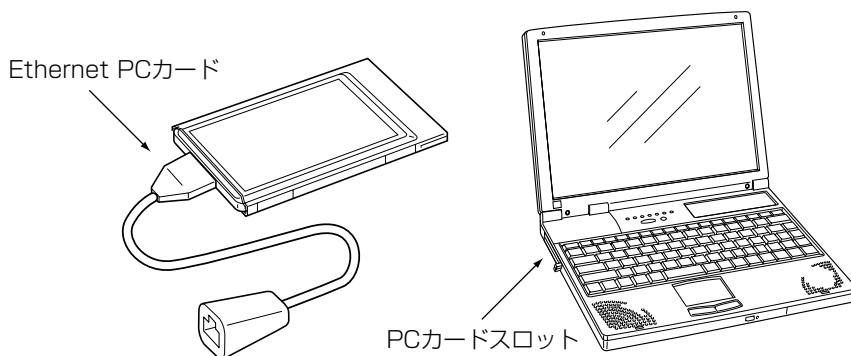
設定には、LANケーブルが接続できるパソコンをご用意ください。

すでに有線LANでご使用のパソコンをご使用になる場合は、既存の有線LANからそのパソコンをはずしてください。

※本製品を設置(※3章)する前に、本章を参考に基本設定してください。

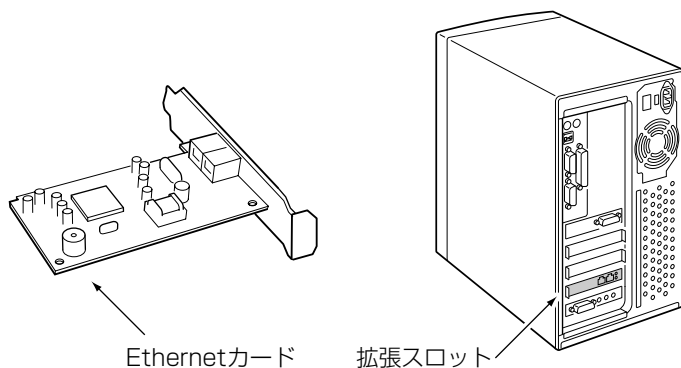
■ ノートブックタイプの場合

LANケーブルを接続できない場合は、PCカードスロットにLAN(Ethernet)カードを取り付けてください。



■ デスクトップタイプの場合

LANケーブルを接続できない場合は、拡張スロットにLAN(Ethernet)カードを取り付けてください。



Step2. 固定IPアドレスをパソコンに設定する

固定IPアドレス(192.168.0.10)を設定用のパソコンに設定する手順について、Windows XPを例に説明します。

※出荷時や全設定初期化時は、本製品のDHCPサーバ機能は、「OFF」に設定されています。

〈接続の手順〉

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - 「ログオン」画面を表示します。
2. 管理者のユーザー名でログオンします。
3. パソコンが起動したら、マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
4. コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。



5. [ネットワーク接続]アイコンをクリックします。
6. ご使用のEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続]アイコンを右クリックすると表示されるメニューから、[プロパティ(B)]をクリックします。



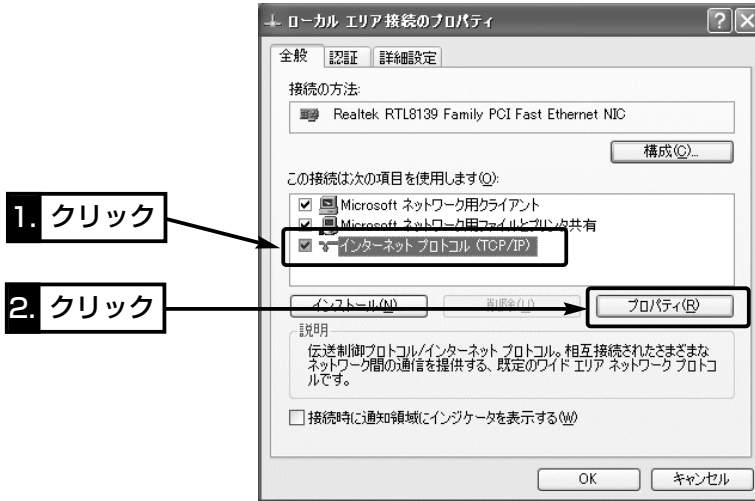
2 クイック導入ガイド

1. ➤ Step2. ➤ 3. ➤ 4. ➤ 5. ➤ 6. ➤ 7.

Step2. 固定IPアドレスをパソコンに設定する

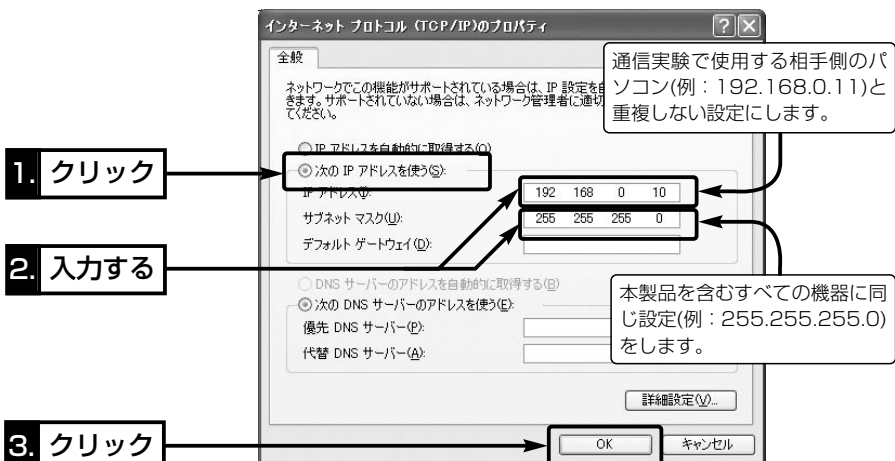
〈接続の手順〉(つづき)

7.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックして、〈プロパティ(B)〉をクリックします。



8. [次のIPアドレスを使う(S)]のラジオボタンをクリックして、チェックマークを入れます。

[IPアドレス(I)](192.168.0.10)と[サブネットマスク(U)](255.255.255.0)を入力して、〈OK〉をクリックします。

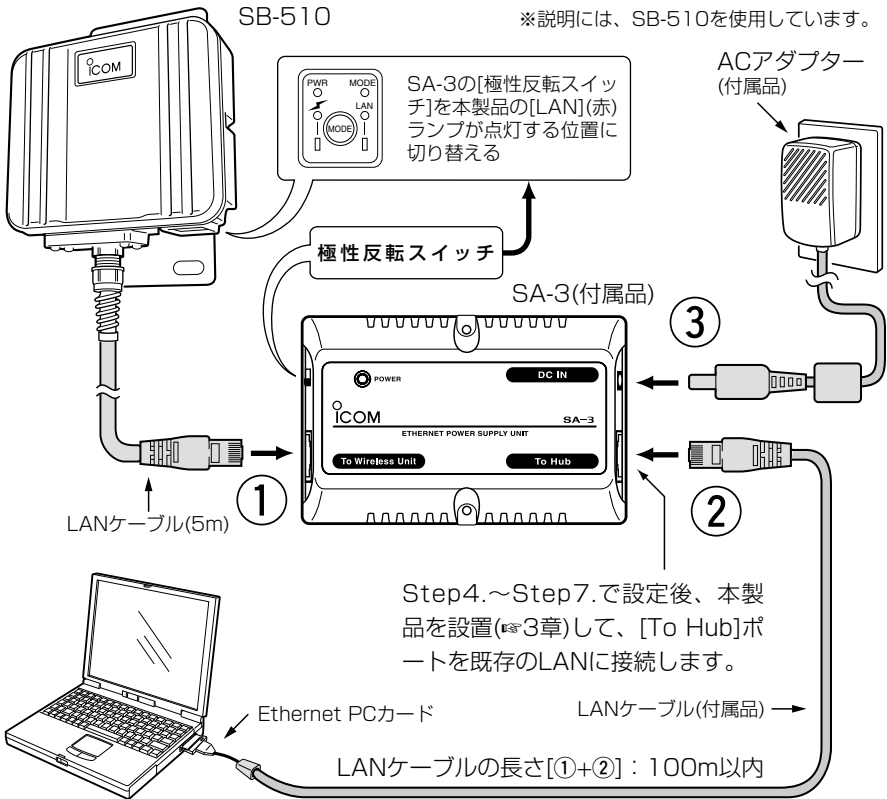


Step3. 設定に使うパソコンの接続

固定IPアドレスをパソコンに設定(※2章 : Step2.)後、設定用のパソコンと本製品を下記の図に示すように1対1で、番号(①~③)の順に接続します。

〈接続の手順〉

1. 接続後、約10~15秒経過してもSA-3の[POWER]ランプが点滅を繰り返すときは、LANケーブル(下図①)の接続を確認してください。
2. パソコンを起動後、本製品の[LAN](赤)ランプが点灯していることを確認します。点灯していないときは、SA-3の極性反転スイッチを切り替えてください。



△ご注意 : SA-3について

※SA-3およびACアダプターは、防水構造ではありませんので、雨水などでぬれやすい場所に設置しないでください。(※P5)

※本製品の通気口をふさいだり、極端に狭い場所や壁とのすき間など、風通しの悪い場所に設置しないでください。

強力な磁界(電磁波)や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。

発熱して故障の原因になることがあります。

2 クイック導入ガイド

1. > 2. > 3. > Step4. > 5. > 6. > 7.

Step4. 設定画面へのアクセスを確認する

接続したパソコンのWWWブラウザから本製品を設定する画面にアクセスする手順について説明します。

※本製品と1対1で接続されたパソコンのWWWブラウザは、Microsoft Internet Explorer6.0以降、またはNetscape6.0以降をご用意ください。

〈設定画面の呼び出しかた〉

1. WWWブラウザを起動します。

※本書では、Internet Explorer6.0を使って説明しています。

2. 本製品に設定されたIPアドレスをWWWブラウザのアドレスバーに指定します。

「http://192.168.0.1/」(出荷時の場合)と入力して、[Enter]キーを押します。

- 「ネットワーク設定」メニュー内の画面を最初に表示します。

※下記に示す画面は、本製品の出荷時、または全設定を初期化したときの状態です。

■「LAN側IP設定」画面(※最初に表示される画面です。)

① http://192.168.0.1/を入力
② [Enter]キーを押す

ルーターモード設定
ルーターモードを使用 しない する

本体名称/ IPアドレス設定

ネットワークインターフェース	ネットワーク1	ネットワーク2
IPアドレス	192.168.0.1	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0

VLAN設定
VLANを使用 しない する
マネージド VLAN ID 0

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス	
		追加

現在の登録

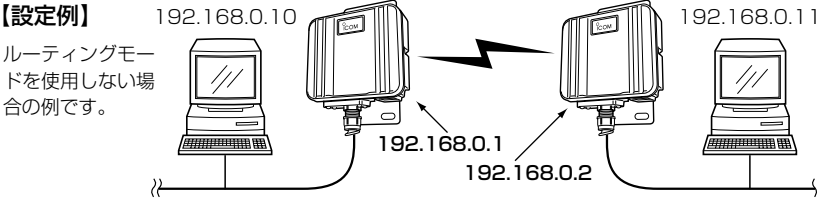
MACアドレス	IPアドレス

Step5. 本体IPアドレスを変更する

本製品のLAN側IPアドレスを変更する手順について説明します。

※本製品のLAN側IPアドレス(出荷時の設定: 192.168.0.1/255.255.255.0)は、通信相手のネットワーク機器と重複しないように設定します。

【設定例】



※説明には、SB-510を使用し、SA-3は省略しています。

《変更のしかた》

1. 本製品の設定画面にアクセス(☞Step4.)します。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
2. [本体名称/IPアドレス設定]項目で[ネットワーク1]側の[IPアドレス]欄と[サブネットワークマスク]欄を変更します。 (設定例: 192.168.0.2/255.255.255.0)
3. <登録して再起動>をクリックします。
 - 設定が有効になり、「IPアドレスが変更されました。コンピュータの設定を変更してください。」と、表示します。
4. IPアドレスの「ネットワーク部(例: 192.168.0.)」を変更したときは、設定に使用するパソコン「ネットワーク部」についても本製品と同じに変更します。(☞Step2.)

【IPアドレスの割り当てかた】

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0.」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。

さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。

以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾および「255」)を割り当てない

2 クイック導入ガイド

1. > 2. > 3. > 4. > 5. > Step6. > 7.

Step6. 「ビル間通信(無線ブリッジ)」を設定する

無線ブリッジ接続するには、[通信チャンネル]と[BSSID]を設定します。

[A]-[通信チャンネル]の設定

無線ブリッジ接続に使用するチャンネルです。 (出荷時の設定：11(2462MHz))

※通信する相手間で同じチャンネルに設定してください。

〈設定のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセス(※2章：Step4.)して、「無線LAN設定」メニューをクリックします。
 - 「無線LAN設定」画面を表示します。
2. 「チャンネル」を[無線LAN設定]項目の[チャンネル]欄から選択します。
3. 〈登録して再起動〉をクリックします。
 - 設定が有効になります。



〈ご参考に〉相手の[BSSID]を検出するには

上記の画面で、[チャンネル]と[SSID](出荷時の設定：LG)の設定を通信相手と同じにすると、通信相手の[BSSID]を検出できます。

通信相手の新規登録や切り替えなど、相手の[BSSID]の登録が容易になります。

※大文字/小文字の区別にご注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

※近くに、同じ条件の弊社製無線アクセスポイントや無線AP間通信する機器が存在する場合は、それらの機器の[BSSID]と併せて検出されますのでご注意ください。

「00-90-C7-99-**-**-*(SB-510/SB-510EA)」以外の[BSSID]が検出された場合は、弊社製無線アクセスポイントの場合があります。

「**-**-**」の部分は、各機器で重複しない固有の数字が表示されます。

※検出できないとき、または、近くに弊社製の無線アクセスポイントやほかのビル間通信ユニットが稼働しているような環境では、相手の[BSSID]を手動で入力することをおすすめします。(※P17)

※本製品の[SSID]は、相手の[BSSID]検出に使用しているだけです。[SSID]の設定が相手と異なる場合でも、無線ブリッジ接続には影響しません。

Step6. 「ビル間通信(無線ブリッジ)」を設定する(つづき)

[B]-自分の[BSSID]を確認する

互いに相手側の[BSSID]を本製品に登録することで、無線ブリッジ接続できます。

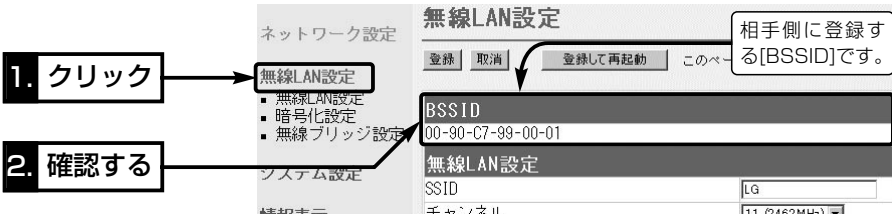
※[BSSID]は、「ネットワーク情報」画面に表示される[本体MACアドレス](※P69)とは異なりますのでご注意ください。

〈確認のしかた〉

下記画面の[BSSID]項目に12桁で表示する数字が相手側に登録する[BSSID]です。

(表示例：00-90-C7-99-00-01)

※この[BSSID]は、「無線ブリッジ設定」画面でも確認できます。



[C]-相手の[BSSID]を登録する

無線ブリッジ接続する相手の[BSSID]を[登録済みの端末リスト]に登録します。

〈登録のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセス(※2章：Step4.)して、「無線LAN設定」メニュー→「無線ブリッジ設定」の順にクリックします。

- 「無線ブリッジ設定」画面を表示します。

2. [ステーションリスト]項目の[自動検出された端末]欄に[BSSID](表示例：00-90-C7-99-**-**-**)が表示されたときは、その欄の右ある〈追加〉をクリックします。

- [BSSID]が登録され、[登録済みの端末リスト]項目に表示します。



2 クイック導入ガイド

1.▶2.▶3.▶4.▶5.▶6.▶Step7.

Step7. ビル間通信を確認する

次の手順で通信を確認できたあとは、本製品を設置してください。

ビル間通信の確認は、Step3.で接続したパソコンから、通信相手の本体IPアドレスを指定することで、相手側の設定画面にアクセス(※Step4.)できることを確認します。

※Step6.の[登録済み端末リスト]項目の[BSSID]欄で、その右側に表示される[信号強度]欄の表示は、目安として「15」以上を表示すれば、正常に通信可能です。

※SB-510EAをご使用の場合は、外部アンテナ(別売品)を仮接続した状態で、通信を確認してください。

※本製品のDHCPサーバ機能や暗号化など、詳細な機能を設定するときは、本書4章をご覧ください。

[例] 本製品の本体IPアドレスを「192.168.0.1」に設定し、相手側を「192.168.0.2」に設定している場合、本製品側に接続したパソコンから「192.168.0.2」を指定したとき、相手側の設定画面が表示されれば通信できています。

相手側に接続されたパソコンから、本製品の本体IPアドレスを指定して、同様に通信を確認します。

【通信実験するときの距離について】

通信実験を行うときは、機器間の距離を5m以上はなしてください。

5m以下の距離で通信実験すると、無線ユニットの通信特性により実際の設置と比較して伝送速度が遅くなる場合があります。

この章では、
本製品の設置のしかたについて説明しています。
クイック導入ガイド(※2章)で通信確認をしてから設置されることをおすすめします。

3-1. 組み合わせ設置例	20
3-2. 本体をマストに固定するには	23
■ アンテナケーブルの接続(SB-510EA用)	23
■ 仰角金具の取り付けかた(SB-510用別売品)	24
3-3. 壁面に固定するには	25
3-4. 設置と接続のご注意	25
3-5. 指向特性について	26
3-6. 通信距離について	26
3-7. 長距離通信でご使用のかたへ	27
■ フレネルゾーンについて	27
■ 地球の影響について	28

△ご注意

- ◎SB-510本体のケースやSB-510EAの外部アンテナに塗装をしないでください。
塗料に含まれる金属成分の影響で電波が弱まり、十分な性能を発揮しなくなります。
- ◎本製品に接続された電源コードや接続ケーブルが、人に触れるおそれがない場所に固定してください。
- ◎本製品のLANケーブルは、風などの影響を受けて大きく揺らされたり引っ張られたりすることがありますので、マストなどに固定してください。

【避雷対策について】

雷の多い地域でご使用になる場合は、SB-510EAの外部アンテナと本製品とのあいだに、同軸避雷器 [FL-332S(弊社別売品)など]を挿入してご使用になることをお勧めします。
また、SB-510とSB-510EAの電源およびLANケーブルについては、電源用およびLAN用の雷保護装置 [PW]「100B-T」(日辰電機製作所)などをご使用になることをおすすめします。

【工事について】

設置工事の際、建造物の破損、高所や足場の悪い場所での作業に伴う製品の落下やけがをしたことによる損害、またその他どんな場合においても、当社は責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。なお、高所や足場の悪い場所に取り付ける必要のある場合は危険が伴いますので、必ず専門業者にご相談ください。

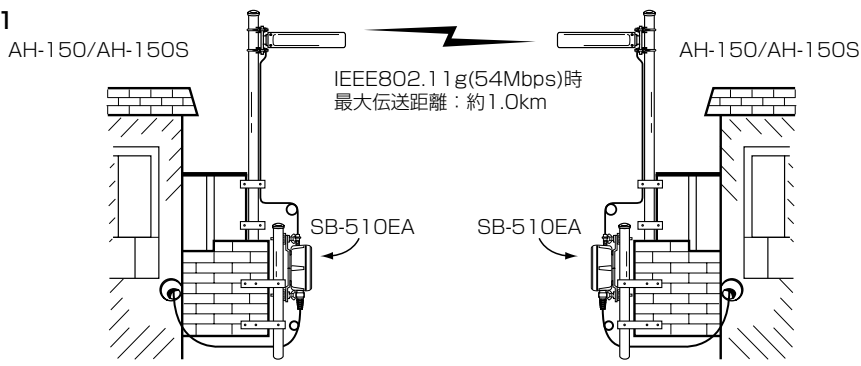
3 設置のしかた

3-1. 組み合わせ設置例

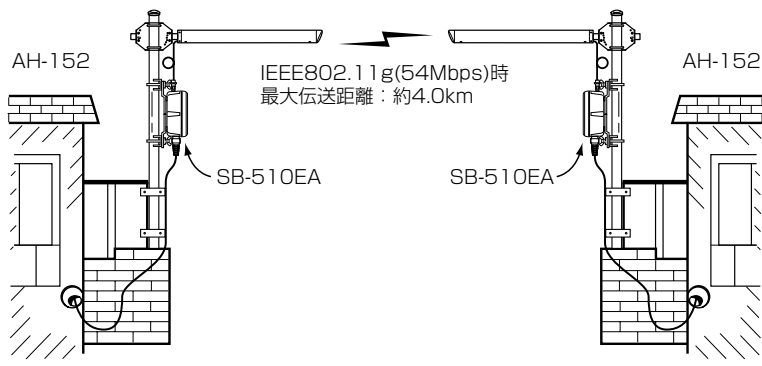
SB-510EAの外部アンテナ(弊社別売品)やSB-510の内蔵アンテナには、指向特性(電波の放射方向や受信の方向)があります。

次の図に示すように、上下方向を含めてアンテナどうしが向き合うように設置します。

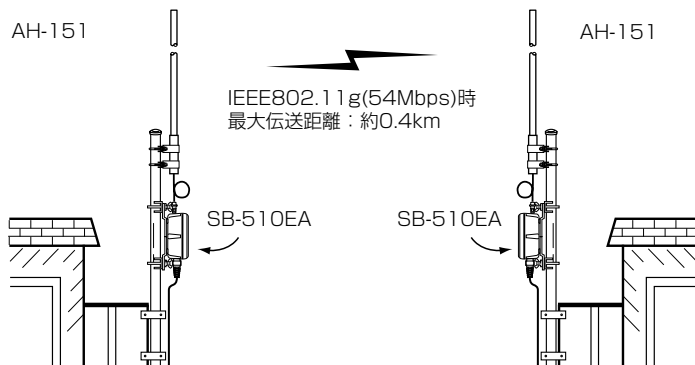
例1



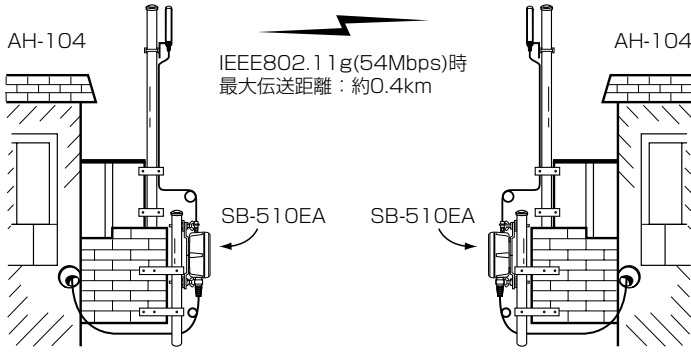
例2



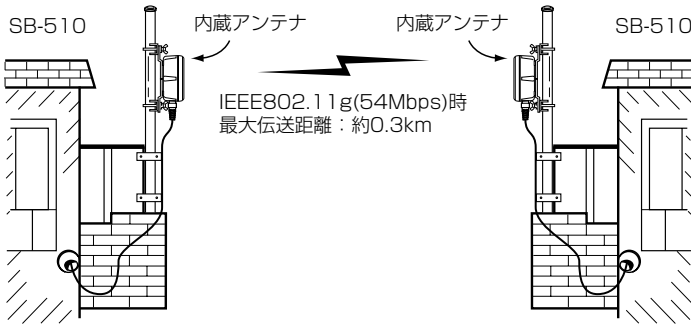
例3



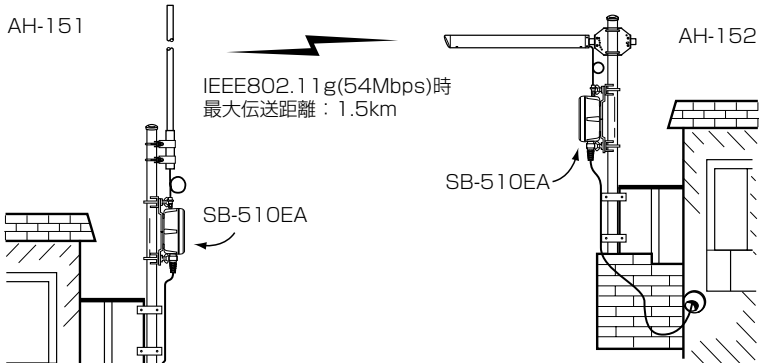
例4



例5



例6



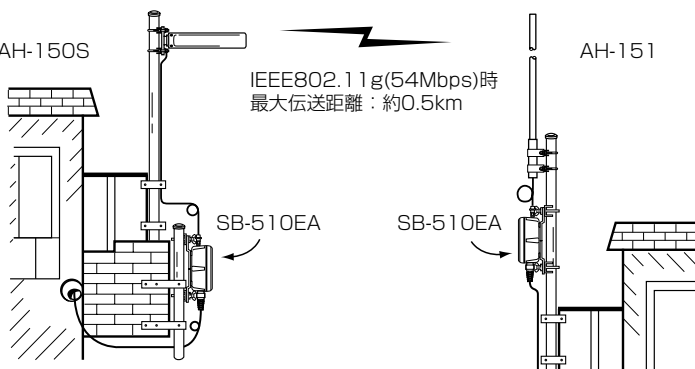
※例1～例9以外の組み合わせについては、一覧表(※P26)に記載していますので、併せてご覧ください。
 ※最大伝送距離は、通信速度や環境、無線LAN規格によって異なります。
 ※通信速度の設定を「11/5.5/2/1」Mbpsに固定すると、[IEEE802.11b]規格で通信します。
 最大伝送距離は、[IEEE802.11g]規格より長くなります。

3 設置のしかた

3-1. 組み合わせ設置例(つづき)

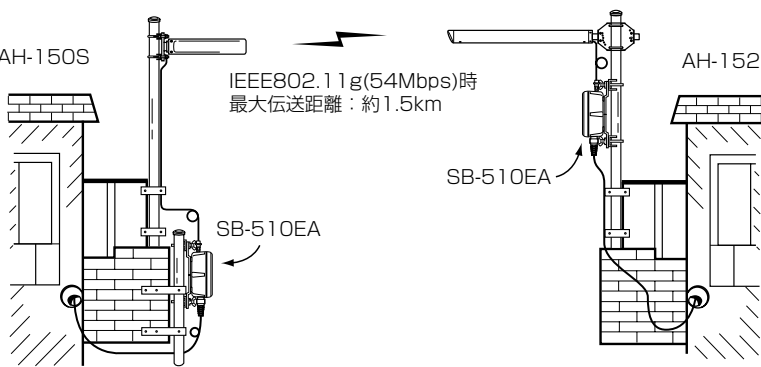
例7

AH-150/AH-150S



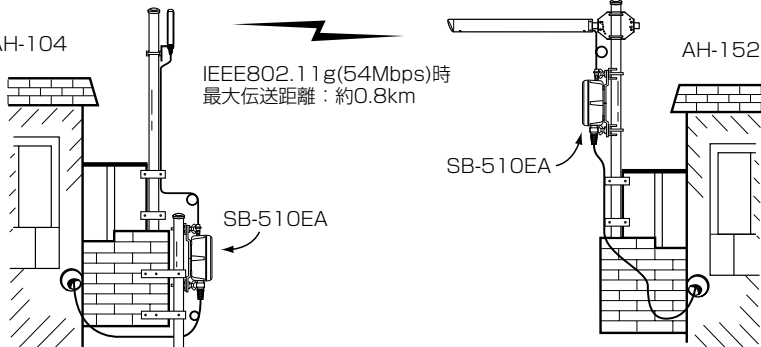
例8

AH-150/AH-150S



例9

AH-104



※例1～例9以外の組み合わせについては、一覧表(☞P26)に記載していますので、併せてご覧ください。

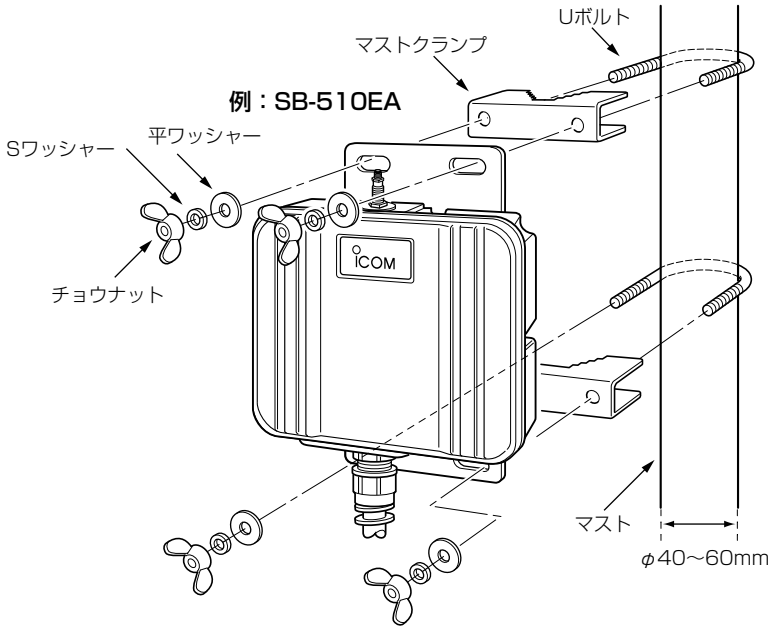
※最大伝送距離は、通信速度や環境、無線LAN規格によって異なります。

※通信速度の設定を「11/5.5/2/1」Mbpsに固定すると、「IEEE802.11b」規格で通信します。

最大伝送距離は、「IEEE802.11g」規格より長くなります。

3-2. 本体をマストに固定するには

設置場所(※3-4章～3-7章)に注意して、SB-510/SB-510EA本体をマストに設置します。

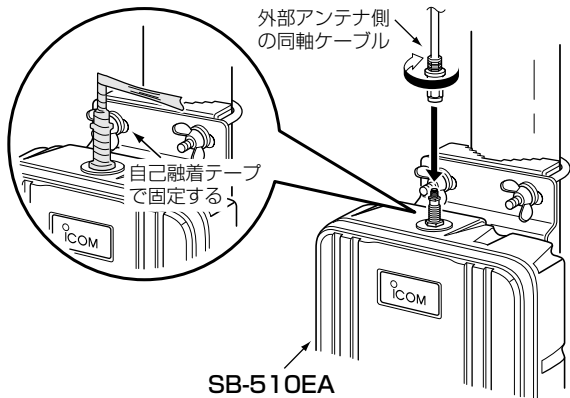


3

■ アンテナケーブルの接続(SB-510EA用)

【ご参考】
同軸ケーブルのコネクター部分は、防水構造になっていますが、市販の粘着ビニールテープを、自己融着テープの上から巻くと安心です。

同軸ケーブルのコネクターを図の方向に締め付けてから、外部アンテナ(弊社別売品)に付属する自己融着テープでコネクターの根元から上に向かって巻きつけます。



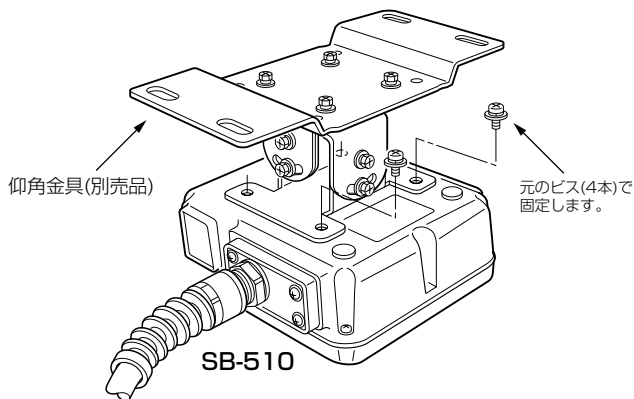
3 設置のしかた

3-2. 本体をマストに固定するには(つづき)

■ 仰角金具の取り付けかた(SB-510用別売品)

SB-510の取り付け金具をはずして、仰角金具(MB-89)と付け替えます。

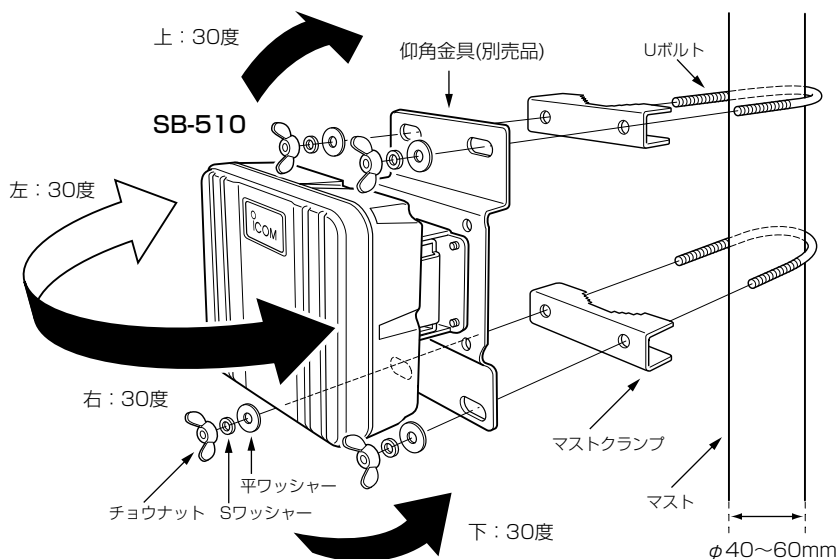
このとき、組み立ては、元のビスを使用します。



〈仰角金具使用時のマスト固定例〉

図のように、仰角金具を取り付けたSB-510本体をマストに固定できます。

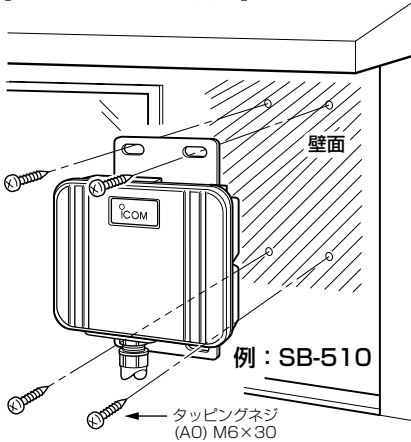
※仰角金具(MB-89)を使用した場合、取り付けられたマストの径が細いと、調整する角度によっては、ユニットに付属のUボルトと本体が接触するおそれがありますので、強く接触させた状態で固定しないように、ご注意ください。



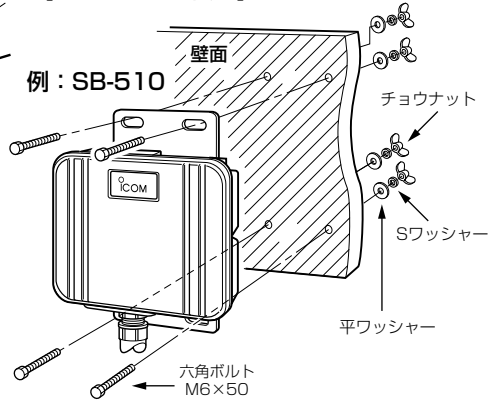
3-3. 壁面に固定するには

本製品に付属するタッピングネジ、または六角ボルトを使用して固定します。

【タッピングネジを使う】



【六角ボルトを使う】



3-4. 設置と接続のご注意

本製品の設置場所にはご注意ください。

混信したり、通信範囲や速度に影響する場合があります。

次のような場所に設置してください。

- ◎なるべく見通しが良く、本製品の上に物を掛けたりできない(高い)場所
- ◎直射日光および風雨が直接あたらない場所
- ◎振動が無く、落下の危険がない安定した場所
- ◎本製品どうしやほかの製品(TVアンテナ等)と近づきすぎない場所
- ◎設置予定の位置から、相手方を結ぶ直線上に大きな障害物があったり、一時的な障害物の移動によって通信障害を起こすことがないような高い場所
- ◎近くに強力な電波を発射する電波塔などが無い場所
- ◎近くに倉庫などのような金属製の外壁(電波が反射するおそれ)がない場所
- ◎SA-3は、HUBなどのネットワーク機器とは異なり、リピーター機能は搭載されていません。

したがって、SA-3についてもLANケーブルの一部として、Ethernet規格の最大長制限(100m)に含まれますのでご注意ください。

◎SA-3は、風通しがよく涼しい場所に設置してください。

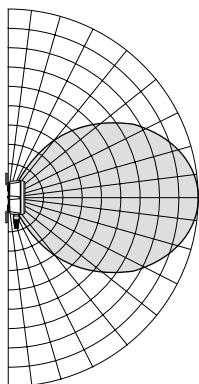
◎SA-3は、防水構造ではありません。

電源を直接接続して使用しますので、雨水などでぬれないところにあるコンセントから近い場所に設置してください。

◎1台のSA-3につき、SB-510/SB-510EAを1台だけ接続できます。

3 設置のしかた

3-5. 指向特性について



SB-510本体には、左図のような指向性のあるアンテナが内蔵されています。

設置するときは、上下方向を含めてSB-510本体、またはSE-510EAの外部アンテナが向き合うような位置に固定してください。

通信相手との方向が大きく外れると通信速度や距離に影響しますので、ご注意ください。

※SB-510EAに接続する外部アンテナの指向特性については、外部アンテナに付属の取扱説明書をご確認ください。

3-6. 通信距離について

本製品の組み合わせにより、最大伝送距離が次のように異なります。

※下記の数値は、[IEEE802.11g]規格のビル間通信で使用する場合の見通し距離を記載しています。

この表を目安に、対向する互いの設置場所が下記に示す距離を超えないように設置してください。

[IEEE802.11g規格の場合]

[単位：km]

アンテナ	AH-150 AH-150S	AH-151	AH-152	AH-104	SB-510 (内蔵タイプ)	AH-153	AH-154
AH-150 AH-150S	*約1.0	*約0.5	*約1.5	約0.4	約0.3	約0.3	約0.2
AH-151	*約0.5	*約0.4	*約1.5	約0.4	約0.3	約0.3	約0.2
AH-152	*約1.5	*約1.5	*約4.0	*約0.8	約0.5	約0.5	約0.4
AH-104	約0.4	約0.4	*約0.8	*約0.4	約0.3	約0.3	約0.2
SB-510 (内蔵タイプ)	約0.3	約0.3	約0.5	約0.3	*約0.3	約0.3	約0.2
AH-153	約0.3	約0.3	約0.5	約0.3	約0.3	約0.3	約0.2
AH-154	約0.2	約0.2	約0.4	約0.2	約0.2	約0.2	約0.2

※「★印」付きの最大伝送距離は、「3-1. 組み合わせ設置例」と併せてご覧いただけます。

※最大伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

※通信速度の設定を「11/5.5/2/1」Mbpsに固定すると、[IEEE802.11b]規格で通信します。
最大伝送距離は、[IEEE802.11g]規格より長くなります。

3-7. 長距離通信でご使用のかたへ

SB-510EAを長距離通信でご使用になる場合、直線の見通し距離だけでなく、電波の反射や干渉の影響、およびフレネルゾーンなどを考慮して、アンテナの設置が必要です。

※「長距離通信モード」(P60)の設定を変更しても、通信速度が改善されない場合は、これらのことも原因と考えられます。

■ フレネルゾーンについて

電波は進行方向に対して、円形に幅を持って伝送します。そのため、電波を伝送するにはアンテナ間を結んだ直線上だけでなく、そのまわりの領域も必要になります。

その領域をフレネルゾーンといいます。

アンテナ間が見通せる場合でも、フレネルゾーン中にビルや木などの障害物があると、電波の飛びが悪くなったり、通信速度が低下するなど、電波の品質が低下する可能性があります。

したがって、AH-152(弊社別売品)のアンテナで安定した長距離通信をするには、図1のように、フレネルゾーンを避けられるだけの地上高に、アンテナを設置する必要があります。

フレネルゾーン内に障害物が入っている

フレネルゾーン内に障害物が入らないようにアンテナを設置する

フレネルゾーンの計算例

通信距離 (km)	1	2.5	4.0
フレネルゾーン半径 (m)	5.6	8.8	11.2

λ=0.125、n=1で計算した結果です。

フレネルゾーンの計算式

$$R_n = \left(\frac{n \times \lambda \times d_1 \times d_2}{d_1 + d_2} \right)^{1/2}$$

R_n (m):フレネルゾーンの半径
 n :フレネルゾーンの次数
 λ (m) :波長
 d_1 (m) :A点からの距離
 d_2 (m) :B点からの距離

図1：フレネルゾーンとアンテナの設置

3 設置のしかた

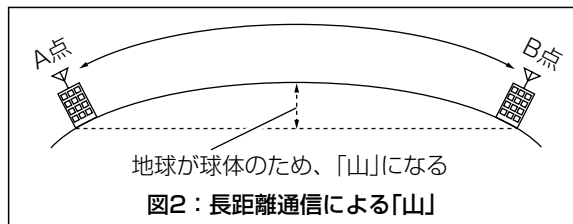
3-7. 長距離通信でご使用のかたへ(つづき)

■ 地球の影響について

通信距離が長くなると、図2のように、地球が球体であるため「山」が発生します。

そのため、「山」の影響も無視できません。

通信距離が1.0km、2.5km、4.0kmのときの「山」は、それぞれ、約1.0cm、約12cm、約31cmになります。したがって、フレネルゾーン(※P27)だけでなく、地球が球体であるための「山」も避けられるだけの地上高に、アンテナを設置する必要があります。



〈ご参考に〉フレネルゾーンと、地球が球体であることを考慮した、おおよその数値です。図2のA点とB点の距離が、1.0km、2.5km、4.0kmの場合、通信に必要なA点、B点のアンテナの地上高は、表1.～表3.のようになります。

[表1：1.0kmの場合]

A点の地上高	B点の地上高
2m	16m
3m	11m
4m	8m
5m	7m
6m	6m

[表2：2.5kmの場合]

A点の地上高	B点の地上高
2m	40m
3m	30m
5m	20m
6m	15m
7m	12m
8m	10m
9m	9m

[表3：4.0kmの場合]

A点の地上高	B点の地上高
2m	65m
3m	45m
4m	35m
5m	30m
6m	25m
7m	20m
9m	15m
10m	13m
11m	12m

この章では、
そのほかに設定が必要と思われる機能について説明しています。

4-1.無線LANの暗号化を設定するには	30
■ 16進数で暗号化鍵(キー)を入力するには	30
■ ASCII文字→16進数変換表	31
■ ASCII文字で暗号化鍵(キー)を入力するには	32
■ 暗号化鍵(キー)の入力について	33
■ 暗号化鍵(キー)の設定例	34
■ キージェネレータで暗号化鍵(キー)を生成するには	35
4-2.設定画面へのアクセスを制限するには	36
4-3.本製品のDHCPサーバ機能を使うには	37
4-4.無線LANと有線LAN間をルーティングするには	38
4-5.スパニングツリー機能を使用するには	39

4 その他の基本設定

4-1. 無線LANの暗号化を設定するには

暗号化鍵(キー)によるセキュリティの設定は、16進数またはASCII文字で[WEKキー]のテキストボックスに直接入力する方法と、[キージェネレータ]のテキストボックスに任意の英数字や記号を入力する方法があります。

※暗号化方式について詳しくは、本書61ページをご覧ください。

■ 16進数で暗号化鍵(キー)を入力するには

暗号化鍵を[WEKキー]のテキストボックスに16進数で直接入力する手順です。

下記は、設定に必要なおまな条件です。

[暗号化方式] : 「WEP RC4 128(104)」ビット

[入力モード] : 「16進数」(出荷時の設定)

[キーインデックス] : 「2」

〈設定のしかた〉

通信する相手の機器にも同じ設定をしてください。

1.本製品の設定画面にアクセスして、「無線LAN設定」メニュー→「暗号化設定」の順にクリックします。

- 「暗号化設定」画面を表示します。

2.[暗号化方式]を「WEP RC4 128(104)」ビットに選択します。

※「なし(出荷時の設定)」の場合は、暗号化が無効になります。

3.[キーインデックス]を「2」に選択します。

※ご使用になる弊社製無線LAN機器によっては、「キーID」と記載されていますが、「キーインデックス」と同じ意味として使用されています。

4.[入力モード]が「16進数」であることを確認します。

5.〈登録〉をクリックします。(※次ページの操作後、下記「8.」を実行)

6. クリック

8. クリック

1. クリック

2. クリック

3. 選択する

4. 選択する

5. 確認する

※次ページで「7.」を操作後、「8.」を操作します。

暗号化設定

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になり再起動が必要な項目が変更されています。

暗号化設定

暗号化方式 WEP RC4 128(104)

キージェネレータ

キーインデックス 2

WEKキー

入力モード 16進数 ASCII文字 26桁

6. [WEPキー]を「16進数」で、[キーインデックス]が「2」のテキストボックスに入力します。

(入力例2 : 48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73)

(入力例1 : 486f7473706f74416363657373)

※通信相手間で[キーインデックス]が異なる場合でも、[WEPキー]は、相手と同じ番号のテキストボックスに、同じ[WEPキー]を設定しないと通信できません。

[入力モード]が「16進数」であることを確認します。

7. 入力する

※「7.」を操作後、前ページで「8.」を操作します。

7. <登録して再起動>をクリックします。

- 設定が有効になります。

■ ASCII文字→16進数変換表

相手が指定する[入力モード]で暗号化鍵(キー)を設定できない場合は、下記の変換表を参考に指示された暗号化鍵(キー)に対応する記号や英数字で入力してください。

[例]16進数で「4c414e574156454d4153544552」(26桁)を設定している場合、ASCII文字では、「LANWAVEMASTER」(13文字)になります。

ASCII文字	! " # \$ % & ' () * + , - . /
16進数	21 22 23 24 25 26 27 28 29 2a 2b 2c 2d 2e 2f
ASCII文字	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 : ; < = > ?
16進数	30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 3a 3b 3c 3d 3e 3f
ASCII文字	@ A B C D E F G H I J K L M N O
16進数	40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 4a 4b 4c 4d 4e 4f
ASCII文字	P Q R S T U V W X Y Z [¥] ^ _
16進数	50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 5a 5b 5c 5d 5e 5f
ASCII文字	` a b c d e f g h i j k l m n o
16進数	60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 6a 6b 6c 6d 6e 6f
ASCII文字	p q r s t u v w x y z { } ~
16進数	70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 7a 7b 7c 7d 7e

4 その他の基本設定

4-1. 無線LANの暗号化を設定するには(つづき)

■ ASCII文字で暗号化鍵(キー)を入力するには

暗号化鍵を[WEPキー]のテキストボックスにASCII文字で直接入力する手順です。

下記は、設定に必要なおもな条件です。

[暗号化方式] : 「WEP RC4 128(104)」ビット

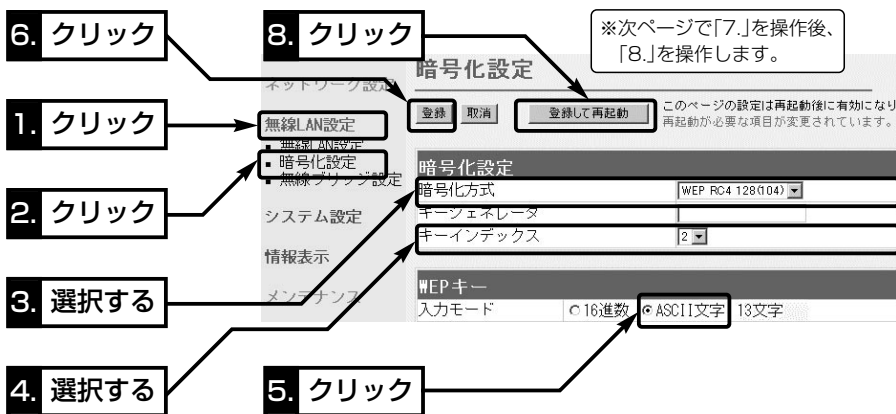
[入力モード] : 「ASCII文字」

[キーインデックス] : 「2」

〈設定のしかた〉

通信する相手の機器にも同じ設定をしてください。

1. 本製品の設定画面にアクセスして、「無線LAN設定」メニュー→「暗号化設定」の順にクリックします。
 - 「暗号化設定」画面を表示します。
2. [暗号化方式]を「WEP RC4 128(104)」ビットに選択します。
※「なし(出荷時の設定)」の場合は、暗号化が無効になります。
3. [キーインデックス]を「2」に選択します。
※ご使用になる弊社製無線LAN機器によっては、「キーID」と記載されていますが、「キーインデックス」と同じ意味として使用されています。
4. [WEPキー]項目の[入力モード]欄で、「ASCII文字」のラジオボタンをクリックします。
5. 「登録」をクリックします。(※次ページの操作後、下記「8.」を実行)



6. [WEPキー]を、[キーインデックス]が「2」のテキストボックスにASCII文字で入力します。
 (入力例：LANWAVEMASTER)

※通信相手間で[キーインデックス]が異なる場合でも、[WEPキー]は、相手と同じ番号のテキストボックスに、同じ[WEPキー]を設定しないと通信できません。

[入力モード]が「ASCII文字」であることを確認します。

7. 入力する

※「7.」を操作後、前ページで「8.」を操作します。

WEPキー

入力モード	16進数	<input checked="" type="radio"/> ASCII文字	13文字
1	00000000000000		
2	LANWAVEMASTER		
3	00000000000000		
4	00000000000000		

7. <登録して再起動>をクリックします。

- 設定が有効になります。

■ 暗号化鍵(キー)の入力について

[暗号化方式]と[入力モード]の設定によって、暗号化鍵(キー)を入力する桁数および文字数が下記のように異なります。

※入力モードを「16進数→ASCII文字」または「ASCII文字→16進数」に変更したときは、設定画面上で<登録>をクリックしてから暗号化鍵(キー)を入力してください。

【無線LAN規格：IEEE802.11b/g】

暗号化方式 \ 入力モード	16進数(HEX)	ASCII文字
WEP RC4 64(40)ビット	10桁	5文字(半角)
WEP RC4 128(104)ビット	26桁	13文字(半角)
WEP RC4 152(128)ビット	32桁	16文字(半角)
OCB AES 128(128)ビット	32桁	16文字(半角)

※入力できる桁数および文字数は、()内のビット数に対する値です。

4 その他の基本設定

4-1. 無線LANの暗号化を設定するには(つづき)

■ 暗号化鍵(キー)の設定例

「WEP RC4 128(104)」ビットの暗号化方式を例に、[WEPキー]項目のテキストボックスに暗号化鍵(キー)を16進数(26桁)で直接入力する場合を説明します。

※例として、「48-6f-74-73-70-6f-74-41-63-63-65-73-73」と「57-41-56-45-4d-41-53-54-45-52-4c-41-4e」のキーを下記のように入力します。

◎インデックスキーが「2」の暗号化鍵(キー)が同じなので通信できます。

SB-510/SB-510EA



SB-510/SB-510EA

キーインデックス	2
WEP キー	
入力モード	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 26桁
1	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
2	48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73
3	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
4	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00

キーインデックス	2
WEP キー	
入力モード	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 26桁
1	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
2	48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73
3	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
4	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00

◎インデックスキーが「2」と「3」の暗号化鍵(キー)が同じなので通信できます。

SB-510/SB-510EA



SB-510/SB-510EA

キーインデックス	2
WEP キー	
入力モード	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 26桁
1	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
2	48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73
3	57-41-56-45-4D-41-53-54-45-52-4C-41-4E
4	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00

キーインデックス	3
WEP キー	
入力モード	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 26桁
1	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
2	48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73
3	57-41-56-45-4D-41-53-54-45-52-4C-41-4E
4	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00

◎インデックスキーが「2」と「3」の暗号化鍵(キー)が異なるので通信できません。

SB-510/SB-510EA



SB-510/SB-510EA

キーインデックス	2
WEP キー	
入力モード	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 26桁
1	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
2	48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73
3	57-41-56-45-4D-41-53-54-45-52-4C-41-4E
4	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00

キーインデックス	3
WEP キー	
入力モード	<input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字 26桁
1	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00
2	57-41-56-45-4D-41-53-54-45-52-4C-41-4E
3	48-6F-74-73-70-6F-74-41-63-63-65-73-73
4	00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00-00

■ キージェネレータで暗号化鍵(キー)を生成するには

[WEPキー]項目の[入力モード]欄を「16進数」(出荷時の設定)に設定するとき、使用できる機能です。

任意の文字列をキージェネレータに入力すると、暗号化鍵(キー)を[WEPキー]のテキストボックスに自動生成できます。

※キージェネレーターは、弊社以外の機器と互換性はありません。

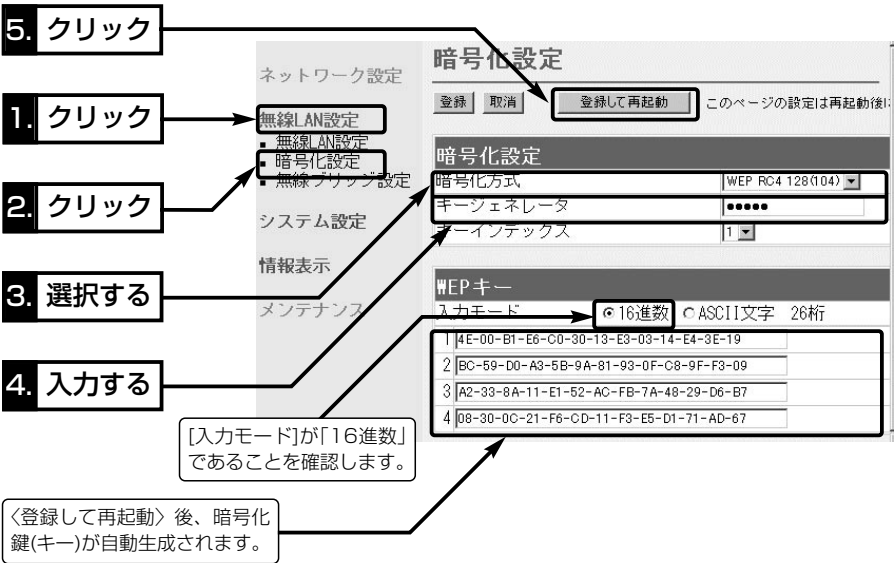
下記は、設定に必要なおもな条件です。

[暗号化方式]：「WEP RC4 128(104)」ビット

[入力モード]：「16進数」(出荷時の設定)※ASCII文字の場合は、使用できません。

〈設定のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセスして、「無線LAN設定」メニュー→「暗号化設定」の順にクリックします。
 - 「暗号化設定」画面を表示します。
2. [暗号化方式]を「WEP RC4 128(104)」ビットに選択します。
 - ※ 「なし(出荷時の設定)」の場合は、暗号化が無効になります。
3. 任意の英数字および文字列(半角31文字以内)を[キージェネレータ]欄に入力します。
 - 入力した内容は、すべて「* (アスタリスク)」、または「● (黒丸)」で表示されます。
(入力例：sb510 表示例：●●●●●)
4. 〈登録して再起動〉をクリックします。
 - 設定した内容が有効になり、暗号化鍵(キー)が自動生成されます。



4 その他の基本設定

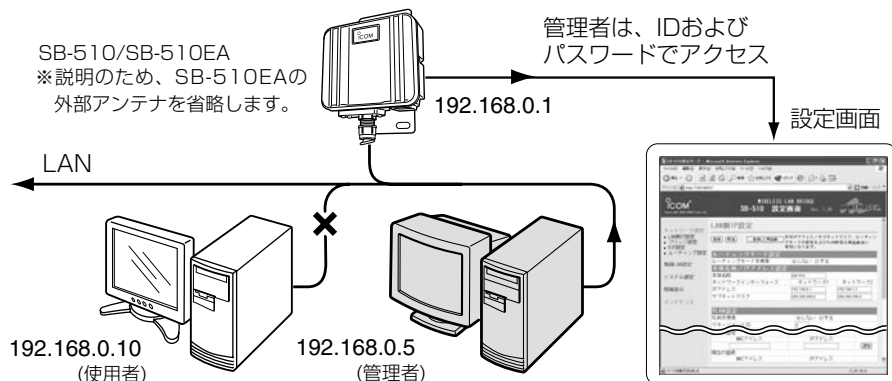
4-2. 設定画面へのアクセスを制限するには

管理者用の[管理者ID]と[管理者パスワード]、および[管理者IPアドレス]を設定することで、管理者以外がWWWブラウザから本製品の設定を変更できないようにします。

※[管理者IPアドレス]は、管理者が使用するパソコンに固定IPアドレスを設定してください。

設定すると、登録したIPアドレス以外のパソコンは、本製品の設定画面にアクセスできなくなります。

※VLAN機能(※P7)と併せて使用できますが、設定にはご注意ください。



〈設定のしかた〉

IDとパスワードは、大文字/小文字の区別に注意して入力してください。

1. 本製品の設定画面にアクセスして、「システム設定」メニューをクリックします。

●「本体管理設定」画面を表示します。

2. 管理者IDを、[管理者ID設定]項目の[管理者ID]欄に、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。 (入力例：user)

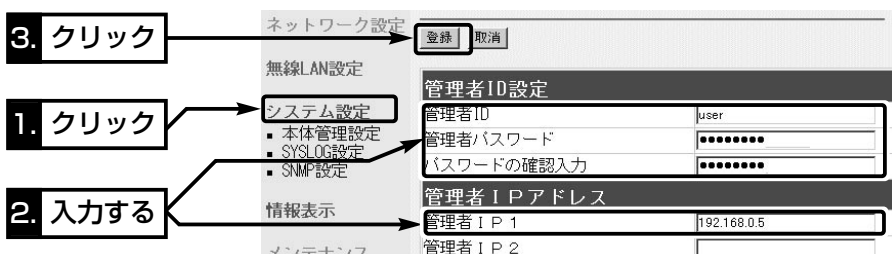
3. 管理者パスワードを、[管理者ID設定]項目の[管理者パスワード]欄と[パスワードの確認入力]欄に、任意の英数字(半角31文字以内)で入力します。

(入力例：userpass 表示例：●●●●●●●●)

入力した文字は、すべて「* (アスタリスク)」、または「● (黒丸)」で表示されます。

4. 管理者IPアドレスと併せて設定する場合は、[管理者IPアドレス]項目の[管理者IP1]欄に、管理者用パソコンのIPアドレスを入力します。 (入力例：192.168.0.5)

5. 〈登録〉をクリックすると、[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を求める画面が表示されますので、ここで設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力します。



4-3. 本製品のDHCPサーバ機能を使うには

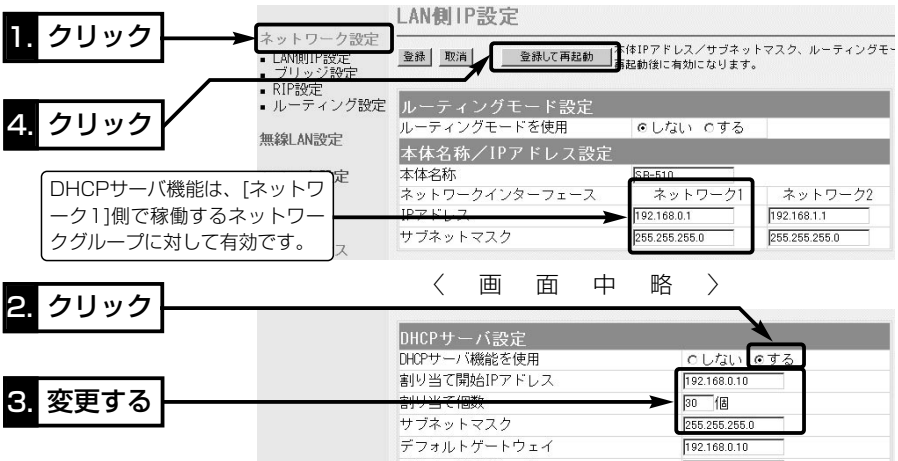
有線LANで本製品のDHCPサーバ機能を使用するときは、下記の手順でDHCPサーバ機能と自動割り当て開始IPアドレスを設定してください。

※本製品のネットワーク上にDHCPサーバが存在するときは、必要ありません。

※[ルーティングモードを使用]欄を「する」に設定した場合、[ネットワーク2](無線LAN)側で稼働するネットワークには、DHCPサーバ機能は設定できません。

〈変更のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセスします。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
2. [DHCPサーバ設定]項目の[DHCPサーバ機能を使用]欄を「する」に変更します。
 - ※設定後は、本製品のDHCPサーバからIPアドレスを自動的に取得できるように、設定用パソコンのIPアドレス設定(※2章：Step2.)を変更してください。
3. [割り当て開始IPアドレス]欄で、「ネットワーク部(例：192.168.0.)」を本製品のLAN側IPアドレスと同じに変更し、必要に応じてそのほかの欄も設定します。
4. 〈登録〉をクリックします。
 - 設定が有効になります。



【DHCPサーバ機能について】
 本製品のDHCPサーバ機能を有効にすると、パソコンが本製品に接続したときに、本製品からIPアドレスを自動的に取得できます。
 本製品を既存のLANと接続する場合、本製品がパソコンに自動で割り当てるIPアドレスの範囲が、パソコンなどに固定で割り当てたIPアドレスと重複しないように設定してください。

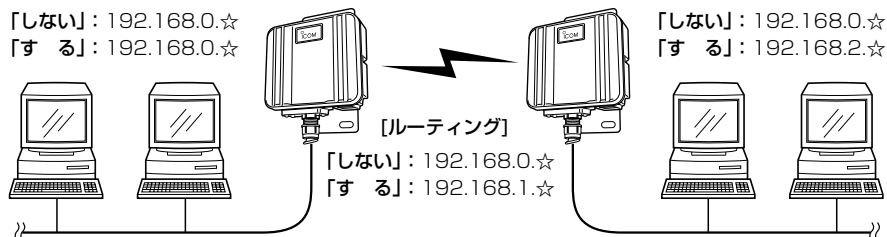
【自動割り当て個数について】
 本製品で設定できる自動割り当て可能なIPアドレスの個数は、0～128個までです。
 出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

4 その他の基本設定

4-4. 無線LANと有線LAN間をルーティングするには

無線LANと有線LANのネットワークグループを別々に構成することで、それらのネットワークグループ間をルーティングできます。

次の図は、ルーティングモードを使用しない場合(上段)と使用する場合(下段)について、各アドレスネットワーク部の設定例を示しています。



※IPアドレスの「ホスト部」は、☆で表記しています。
説明にはSB-510を使用し、SA-3は省略しています。

〈設定のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセスします。
 - 「LAN側IP設定」画面を表示します。
2. [ルーティングモード設定]項目の[ルーティングモードを使用]欄で「する」のラジオボタンをクリックします。
3. [本体名称/IPアドレス設定]項目で、[ネットワークインターフェース]欄の[ネットワーク2](無線LAN)について、[ネットワーク1](有線LAN)とは異なるネットワーク部のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。
4. [ネットワーク1](有線LAN)について、[DHCPサーバ設定]項目の設定が必要な場合は、併せて設定します。
5. 〈登録して再起動〉をクリックします。
 - 設定が有効になります。

1. クリック

2. クリック

3. 設定する

4. クリック

5. クリック

LAN側IP設定

ネットワーク設定

LAN側IP設定

RIP設定

ルーティング設定

無線LAN設定

システム設定

情報表示

メンテナンス

登録 取消 登録して再起動

本製品の無線LAN側ネットワークのIPアドレスを設定します。

ルーティングモード設定

ルーティングモードを使用 しない する

本体名称/IPアドレス設定

本体名称 SB-510

ネットワークインターフェース ネットワーク1 ネットワーク2

IPアドレス 192.168.0.1 192.168.1.1

サブネットマスク 255.255.255.0 255.255.255.0

〈画面中略〉

DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能を使用 しない する

割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

割り当て個数 30 個

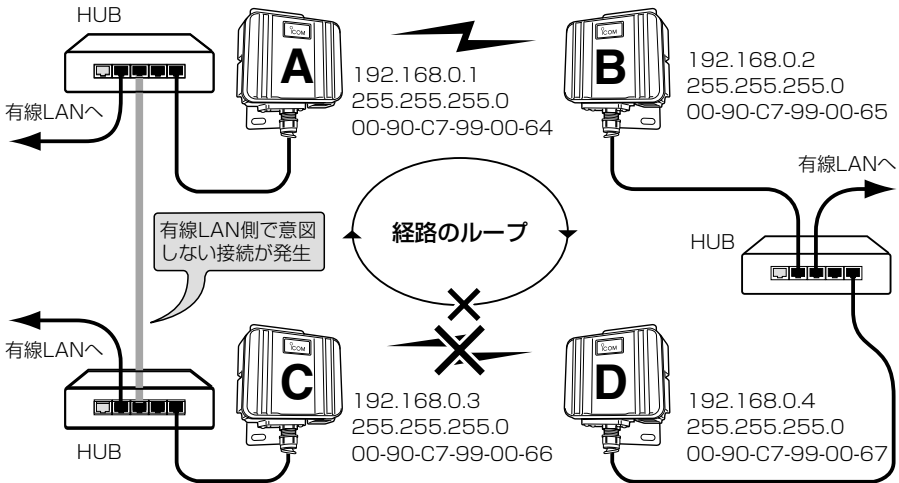
サブネットマスク 255.255.255.0

[ネットワーク1](有線LAN)側で稼働するネットワークグループに対して使用できます。

4-5. スパニングツリー機能を使用するには

スパニングツリー機能の設定について、下記の図を例に説明します。

下記に示す接続障害例は、本製品[A]のHUBと本製品[C]のHUBが意図しないうちに接続されてしまったネットワークで、本製品のすべてにスパニングツリー機能が設定されているため、本製品[C]-[D]間の無線ブリッジ接続を停止して、同一ネットワークグループ内の経路ループを阻止している状態の図です。



※本製品[A~D]の中で、[D]の[MACアドレス]が最小とします。

図中の記載は、上から[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[BSSID]の順です。

[MACアドレス]は、「情報表示」メニューの「ネットワーク情報」画面に表示されています。

説明には、SB-510を使用し、SA-3を省略しています。

Step 1. 本製品[A]-本製品[B]間の設定

1. 本体IPアドレスとサブネットマスクを設定(☞2章：Step5.)します。

◎本製品[A]：192.168.0.1/255.255.255.0

◎本製品[B]：192.168.0.2/255.255.255.0

2. 通信相手と同じ[チャンネル]を設定(☞2章：Step6.)します。(例：11(2462MHz))

3. 通信相手の[BSSID]を自分の機器に登録(☞2章：Step6.)します。

◎本製品[A]には、「例：00-90-C7-99-00-65」を登録します。

◎本製品[B]には、「例：00-90-C7-99-00-64」を登録します。

◎本製品[A]と本製品[B]の[通信速度]の設定は、「自動」とします。

4 その他の基本設定

4-5. スパニングツリー機能を使用するには(つづき)

Step2.本製品[C]-本製品[D]間の設定

1. 本体IPアドレスとサブネットマスクを設定(※2章 : Step5.)します。
 - ◎本製品[C] : 192.168.0.3/255.255.255.0
 - ◎本製品[D] : 192.168.0.4/255.255.255.0
2. 通信相手と同じ[チャンネル]を設定(※2章 : Step6.)します。(例 : 6(2437MHz))
3. 通信相手の[BSSID]を自分の機器に登録(※2章 : Step6.)します。
 - ◎本製品[C]には、「例 : 00-90-C7-99-00-67」に登録します。
 - ◎本製品[D]には、「例 : 00-90-C7-99-00-66」に登録します。
 - ◎本製品[C]と本製品[D]の[通信速度]の設定は、「自動」とします。

Step3.スパニングツリー機能を設定する

スパニングツリー機能を本製品[A~D]のすべてに設定します。

1. 本製品の設定画面にアクセスして、「ネットワーク設定」メニュー→「ブリッジ設定」の順にクリックします。
 - 「ブリッジ設定」画面を表示します。
2. 「ブリッジ設定」項目の「スパニングツリー機能を使用」欄で、「する」のラジオボタンをクリックします。
3. 「登録して再起動」をクリックします。
 - 設定が有効になります。

1. クリック

2. クリック

4. クリック

3. クリック

ネットワーク設定
LAN/Bluetooth設定
ブリッジ設定
RF設定
ルーティング設定
無線LAN設定
システム設定
情報表示
メンテナンス

ブリッジ設定

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

ブリッジ設定

スパニングツリー 機能を使用	しない	する
ブリッジ優先度 (Bridge Priority)	32768	
エイジングタイム (Ageing Time)	300 秒	
マックスエイジ (Max Age)	20 秒	
ハロータイム (Hello Time)	2 秒	
転送遅延 (Forward Delay)	15 秒	
パスコスト (Path Cost)	有線LAN	100
	無線LAN	200
ポート優先度 (Port Priority)	有線LAN	128
	無線LAN	128

※次ページにつづく

ご参考に-優先度について

ブリッジ接続された本製品の経路優先度は、ブリッジ優先度→パスコスト→ポート優先度の順に決定され、各設定値の小さい方が優先されます。

ご使用のネットワークの形態によって、これらの設定値で優先度を設定してください。

この章の接続例の場合、ブリッジ優先度は、本製品[A~D]すべてが同じ設定値「32768(出荷時の設定)」のため、MACアドレスの小さい本製品[D]を優先します。

本製品[D]のパスコストは、[無線LAN]の設定値「200(出荷時の設定)」より[有線LAN]に設定された設定値「100(出荷時の設定)」のほうが小さいため、有線LANの経路が優先され、無線LANの通信を停止させます。

ポート優先度は、この場合、[有線LAN]と[無線LAN]の設定値が同じ設定値「128(出荷時の設定)」のため比較の対象にはなりません。



この章では、

各メニューの設定画面について説明します。

設定画面は、用途別に各メニューに分類されています。

※設定画面の構成(※7-3章)と併せてご覧ください。

5-1.設定画面の名称と機能	44
■ 設定画面について	44
■ 設定画面選択メニューについて	44
5-2.「ネットワーク設定」メニュー	45
■ 「LAN側IP設定」画面	45
■ 「ブリッジ設定」画面	51
■ 「RIP設定」画面	53
■ 「ルーティング設定」画面	54
5-3.「無線LAN設定」メニュー	57
■ 「無線LAN設定」画面	57
■ 「暗号化設定」画面	61
■ 「無線ブリッジ設定」画面	64
5-4.「システム設定」メニュー	66
■ 「本体管理設定」画面	66
■ 「SYSLOG設定」画面	67
■ 「SNMP設定」画面	68
5-5.「情報表示」メニュー	69
■ 「ネットワーク情報」画面	69
5-6.「メンテナンス」メニュー	70
■ 「ファームウェアの更新」画面	70
■ 「設定初期化」画面	71
■ 「設定保存」画面	71

5 設定メニューについて

5-1. 設定画面の名称と機能

本製品の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。



■ 設定画面について

設定画面表示エリア

設定画面選択メニューで選択されたタイトルの画面表示に切り替わります。

ホームページのリンク

本製品がインターネットできる状態で、icom アイコン上にマウスカーソルを移動してクリックすると、弊社ホームページにアクセスできます。

<登録>/<取消>/<登録して再起動> ボタン
表示しているメニュー画面に設定した内容の登録や取消をします。

本製品を再起動することで変更内容が有効になる項目については、<登録して再起動> をクリックします。

■ 設定画面選択メニューについて

設定画面は、用途別に各メニューに分類されています。

各メニューのタイトル上にマウスカーソルを合わせてクリックします。

表示された画面タイトルをクリックすると、その設定画面を「設定画面表示エリア」に表示します。

各画面の説明については、5-2章以降をご覧ください。

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「LAN側IP設定」画面

〈ルーティングモード設定〉

ネットワーク設定

- LAN側IP設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定

無線LANと有線LAN間のルーティングを設定します。

ルーティングモード設定

ルーティングモードを使用

しない する

有線LANと無線LANの間でルーティング動作をするかしないかを選択します。(出荷時の設定：しない)

対応プロトコルは、TCP/IPだけです。

ルーティングモードを使用すると、不要なブロードキャストなどのトラフィックを押さえた通信ができます。

※設定を変更したときは、本製品の再起動が必要です。

※「しない」を選択したときは、各項目の[ネットワーク1]列の各欄に設定した内容を、有線LANと無線LANで共用します。

この場合、有線LANと無線LANは、ネットワーク部が同じアドレスで機能しますので、[ネットワーク1]列に対する設定だけが有効で、[ネットワーク2]列の各欄の設定は、無効になります。

※「する」を選択すると、各項目の[ネットワーク1]列の各欄に設定した内容を有線LANで使用し、各項目の[ネットワーク2]列の各欄に設定した内容を無線LANで使用します。

このとき、有線LANと無線LANは、ネットワーク部が異なるアドレスで機能しますので、有線LANと無線LANのあいだでルーティング(※P6、4-4章)できます。

5 設定メニューについて

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「LAN側IP設定」画面(つづき)

〈本体名称/IPアドレス設定〉

本製品の名称と本体IPアドレスを設定します。



本体名称/IPアドレス設定			
本体名称	①	SB-510	
ネットワークインターフェース	②	ネットワーク1	ネットワーク2
IPアドレス	③	192.168.0.1	192.168.1.1
サブネットマスク	④	255.255.255.0	255.255.255.0

① 本体名称……………

ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
設定した名前は、本製品に「Telnet」で接続したとき、その画面に表示されます。(出荷時の設定：SB-510)
ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、-)、31文字以内で設定します。
※登録できない文字は、「# % / : ? @ ¥ '」の8種類です。

② ネットワーク インターフェース……

[ルーティングモード設定]項目で、[ルーティングモードを使用]欄を「する」に設定する場合だけ、[ネットワーク2]側の列にある各欄の設定が有効になり、有線LAN(ネットワーク1)とネットワーク部の異なる無線LANとして、有線LANと無線LAN間をルーティングできます。また、[ルーティングモードを使用]欄を「しない」(出荷時の設定)に設定する場合は、[ネットワーク2]側の列にある各欄の設定が無効になりますので、[ネットワーク1]側の設定を有線LANと無線LANで共用します。

③ IPアドレス ……………

本製品の本体IPアドレスを設定します。
※設定を変更したときは、本製品の再起動が必要です。
◎[ネットワーク1]：192.168.0.1(出荷時の設定)
◎[ネットワーク2]：192.168.1.1(出荷時の設定)

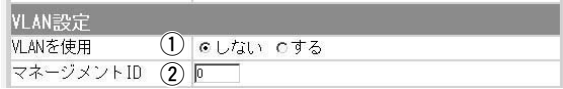
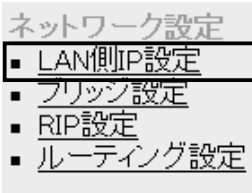
④ サブネットマスク……

本製品のサブネットマスク(同じネットワークグループで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。
(出荷時の設定：255.255.255.0)
※設定を変更したときは、本製品の再起動が必要です。

■ 「LAN側IP設定」画面(つづき)

〈VLAN設定〉

VLAN機能について設定します。



① VLANを使用 ………

VLAN(Virtual LAN)機能を使用して、本製品の[マネージメントID]と同じ番号の[VLAN ID]が設定されたネットワークとだけ本製品と通信できるようにするか、しないかを設定します。(出荷時の設定：しない)

※不用意に設定すると、本製品へのアクセスが制限されますので、ご注意ください。

※VLAN機能を「する」に設定するとき、[マネージメントID]欄(②)と併せて設定します。

※有線LANの[VLAN ID]は、VLAN対応機器で設定されているものとします。

② マネージメントID …

本製品へのアクセスを許可するIDを設定します。

(出荷時の設定：0)

本製品に設定された[マネージメントID]と同じ番号を持つ機器からのアクセスだけを許可できます。

設定できる範囲は、「0～4094」です。

ご使用のネットワーク構成に応じて設定してください。

※「本体管理設定」画面(☞5-4章)の機能と併せて使用できます。

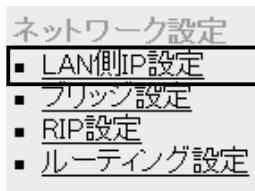
5 設定メニューについて

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「LAN側IP設定」画面(つづき)

〈DHCPサーバ設定〉

DHCPサーバ機能について設定します。



DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	① <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	② <input type="text" value="192.168.0.10"/>
割り当て個数	③ <input type="text" value="30"/> 個
サブネットマスク	④ <input type="text" value="255.255.255.0"/>
デフォルトゲートウェイ	⑤ <input type="text" value="192.168.0.1"/>
プライマリDNSサーバ	⑥ <input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ	⑦ <input type="text"/>
プライマリWINSサーバ	⑧ <input type="text"/>
セカンダリWINSサーバ	⑨ <input type="text"/>
ドメイン名	⑩ <input type="text"/>
リース期間	⑪ <input type="text" value="72"/> 時間

① DHCPサーバ機能 を使用……………

本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)
この機能を使用すると、[ネットワーク1]のネットワークに接続している機器が、本製品のDHCPクライアントになります。

② 割り当て開始 IPアドレス ……………

本製品に有線LANで接続してくる機器に、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
(出荷時の設定：192.168.0.10)

③ 割り当て個数……………

[割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数は、「0～128」までです。
(出荷時の設定：30)
※128個を超える分については、設定できませんので手でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てを行いません。

■ 「LAN側IP設定」画面

〈DHCPサーバ設定〉(つづき)

- ④ サブネットマスク…… [割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。
(出荷時の設定：255.255.255.0)
- ⑤ デフォルト
ゲートウェイ…………… この欄に設定されたIPアドレスをクライアントに通知します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)
- ⑥ プライマリ
DNSサーバ …………… [DHCPサーバ機能を使用]欄を「する」に設定した場合、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。
- ⑦ セカンダリ
DNSサーバ …………… [プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑧ プライマリ
WINSサーバ …………… Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。
WINSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
- ⑨ セカンダリ
WINSサーバ …………… [プライマリWINSサーバ]欄と同様に、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑩ ドメイン名…………… Ethernetでドメイン名を使用しているときなど、必要があれば本製品のDHCPサーバ機能を使用してクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力(半角英数字：127文字以内)します。
- ⑪ リース期間…………… 本製品のDHCPサーバ機能を使用時、本製品がローカルIPアドレスを定期的に自動でクライアントに割り当てなおす期限を時間で指定します。(出荷時の設定：72)
設定できる範囲は、「1～9999」です。

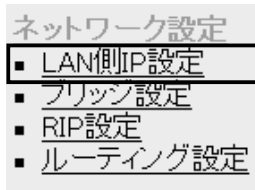
5 設定メニューについて

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「LAN側IP設定」画面(つづき)

〈静的DHCPサーバ設定〉

指定したIPアドレスを特定のパソコンに固定で割り当てるとき設定します。



静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/> <input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

本製品のDHCPサーバ機能を使用時、自動で割り当てるIPアドレスを、特定のクライアントに固定して割り当てるとき、そのクライアントのMACアドレスと固定で割り当てるIPアドレスとの組み合わせを登録する欄です。

※最大16個の組み合わせを登録できます。

登録するクライアントのIPアドレスは、DHCPサーバ機能による割り当て範囲、および本製品のIPアドレスと重複しないように設定してください。

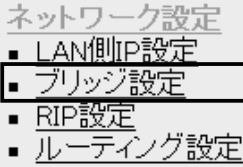
※登録は、右の欄の〈追加〉をクリックします。

■ 登録例

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	
00-90-C7-47-00-01	192.168.0.50	<input type="button" value="削除"/>
00-90-C7-47-00-05	192.168.0.100	<input type="button" value="削除"/>

■「ブリッジ設定」画面 〈ブリッジ設定〉



本製品にスパニングツリー機能を設定します。

ブリッジ設定	
スパニングツリー機能を使用	① <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	② 32768
エージングタイム(Ageing Time)	③ 300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④ 20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤ 2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥ 15 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦ 有線LAN 100 無線LAN 200
ポート優先度(Port Priority)	⑧ 有線LAN 128 無線LAN 128

① スパニングツリー

機能を使用……………

経路のループを検出し、パケットが無限に循環するのを回避して、最適な経路を作成する機能です。

経路作成中は、本製品の[MODE]ランプが点滅します。

(出荷時の設定：しない)

スパニングツリー機能を設定すると、経路障害のないときは、経路のループを検出して重複する経路のうち優先度の低い方を遮断します。

ブリッジ間で経路障害が起こったときは、正常時に遮断されていた経路を使用して、ネットワークの正常な稼働を保ちます。

② ブリッジ優先度……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

ブリッジで通信する本製品の優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、優先度が高くなります。

設定できる範囲は「0～65535」で、一番優先度が高い本製品が、そのネットワークのルートブリッジになります。

(出荷時の設定：32768)

※同じ値が設定された機器がある場合は、MACアドレスの小さい機器の優先度が高くなります。

③ エージングタイム……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

本製品が自動学習したMACアドレスをアドレステーブルに記憶しておく時間を指定します。

(出荷時の設定：300)

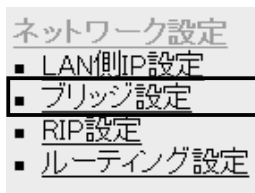
設定できる範囲は、「15～1000000(秒)」です。

無通信状態がこの欄に設定された時間つづくと、アドレステーブルから削除されます。

5 設定メニューについて

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「ブリッジ設定」画面
<ブリッジ設定> (つづき)



ブリッジ設定		
スパンニングツリー機能を使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②	<input type="text" value="32768"/>
エージングタイム(Ageing Time)	③	<input type="text" value="300"/> 秒
マックスエイジ(Max Age)	④	<input type="text" value="20"/> 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤	<input type="text" value="2"/> 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥	<input type="text" value="15"/> 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦	有線LAN <input type="text" value="100"/>
		無線LAN <input type="text" value="200"/>
ポート優先度(Port Priority)	⑧	有線LAN <input type="text" value="128"/>
		無線LAN <input type="text" value="128"/>

④ マックスエイジ……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

BPDU(Bridge Protocol Data Unit)を指定します。
設定できる範囲は、「6～40(秒)」です。

(出荷時の設定：20)

⑤ ハロータイム……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

本製品がルートブリッジとして動作するとき、本製品からBPDU情報を送出する間隔を設定します。

設定できる範囲は、「1～10(秒)」です。

(出荷時の設定：2)

⑥ 転送遅延……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

ネットワークの再編成中に学習したMACアドレスの有効期限を指定します。

(出荷時の設定：15)

設定できる範囲は、「4～30(秒)」です。

⑦ パスコスト……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

ネットワーク全体のブリッジとルートブリッジ間の優先データパスの決定に利用される値で、各ポートからルートブリッジまでの経路コストが小さいブリッジが優先されます。

設定できる範囲は、「1～65536」です。

(出荷時の設定：有線LAN：100 / 無線LAN：200)

⑧ ポート優先度……………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

ブリッジで通信する本製品のポートごとに優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、ポート優先度が高くなります。

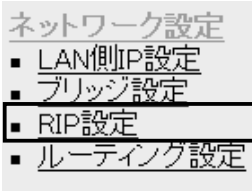
設定できる範囲は、「0～255」です。

(出荷時の設定：有線LAN：128 / 無線LAN：128)

※各ポートで同じ値が設定されている場合は、物理的なポート番号の小さい順に優先度が高くなります。

■ 「RIP設定」画面

〈RIP設定〉



隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するときに設定します。

RIP設定	
RIP設定	① 使用しない
ネットワーク1側RIP動作	② 受信のみ
ネットワーク2側RIP動作	③ 受信のみ
認証キー	④

① RIP設定

RIPの種類を選択します。（出荷時の設定：使用しない）

○使用しない：RIPを使用しないときの設定です。

○RIP：RIPの「Version1」を使用します。

○RIP2(ブロードキャスト)：

RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。

○RIP2(マルチキャスト)：

RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。

【RIP2について】

RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していますので、イントラネット環境でも利用できます。

受信については、ブロードキャスト/マルチキャストの区別なく受け入れます。

② ネットワーク1側

RIP動作

RIPを使用する場合に有効な設定で、[ネットワーク1]側の隣接ルータなどの機器と経路情報を動的に交換する動作を「受信のみ」、または「送信も受信も行う」から選択します。
 （出荷時の設定：受信のみ）

③ ネットワーク2側

RIP動作

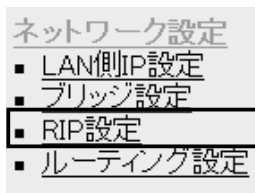
RIPを使用する場合に有効な設定で、[ネットワーク2]側の隣接ルータなどの機器と経路情報を動的に交換する動作を「受信のみ」、または「送信も受信も行う」から選択します。
 （出荷時の設定：受信のみ）

5 設定メニューについて

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「RIP設定」画面

〈RIP設定〉(つづき)



RIP設定	
RIP設定 ①	使用しない
ネットワーク1側RIP動作 ②	受信のみ
ネットワーク2側RIP動作 ③	受信のみ
認証キー ④	

④ 認証キー.....

[RIP設定] ①欄で、「RIP2(マルチキャスト)」,または「RIP2(ブロードキャスト)」を設定している場合、そのRIP動作を認証するためのキーを入力します。

[RIP設定] ①欄で、「RIP」または「使用しない」を選択している場合は、設定しても無効になります。

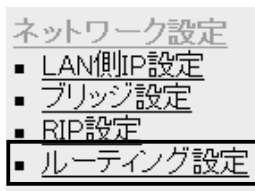
キーの入力には、大文字/小文字の区別に注意して、半角31文字以内で入力します。

認証キーの入力は、他のルータやアクセスポイントに設定されている認証キーと同じ設定にします。

※認証キーを設定すると、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」および、認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。

■ 「ルーティング設定」画面

〈IP経路情報〉



本製品が送信するパケットをどのルータやアクセスポイントに配送すべきかの情報を表示します。

この項目には、[スタティックルーティング設定]項目(☞P56)で追加した経路も表示されます。

IP経①情報	②	③	④	⑤	⑥
宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	経路	作成	メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

① 宛先

ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。

■「ルーティング設定」画面
 〈IP経路情報〉(つづき)

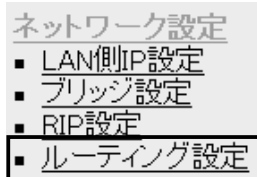
- ② サブネットマスク…… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。
- ③ ゲートウェイ…………… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ 経路…………… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェースを表示します。
 表示された転送先インターフェースの経路は、「情報表示」メニューの「ネットワーク情報」画面に[ネットワークインターフェース リスト]^(※P69)として表示されます。
- ◎local : 「ルーティング」モードを使用しないとき表示され、転送先インターフェースが有線LANおよび無線LANの場合です。
- ◎network1 : 「ルーティング」モードを使用するとき表示され、転送先インターフェースが有線LANの場合です。
- ◎network2 : 「ルーティング」モードを使用するとき表示され、転送先インターフェースが無線LANの場合です。
- ※「ネットワーク設定」メニューの「LAN側IP設定」画面にある[ネットワーク1]と[ネットワーク2]列は、それぞれ「network1」と「network2」のことを指しますが、本製品を「ルーティング」モードで使用しない設定のときは、「local」と表示されます。
- ⑤ 作成…………… どのように経路情報が作成されたかを表示します。
- ◎static : スタティック(定義された)ルートで作成
- ◎rip : ダイナミック(自動生成された)ルートで作成
- ◎misc : ブロードキャスト関連のフレーム処理で作成
- ⑥ メトリック…………… [スタティックルーティング設定]項目の[メトリック]欄で設定された値やダイナミックルーティングで作成された経路のコストを表示します。

5 設定メニューについて

5-2. 「ネットワーク設定」メニュー

■ 「ルーティング設定」画面

〈スタティックルーティング設定〉



パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルで、最大32件まで登録できます。

スタティックルーティング設定

①	②	③	④	⑤	⑥
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
local					追加
現在の登録					
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	

① 経路……………

経路作成の転送先インターフェースを指定します。

- ◎local : 「ルーティング」モードを使用しないとき指定でき、転送先インターフェースが有線LANおよび無線LANの場合です。
- ◎network1 : 「ルーティング」モードを使用するとき指定でき、転送先インターフェースが有線LANの場合です。
- ◎network2 : 「ルーティング」モードを使用するとき指定でき、転送先インターフェースが無線LANの場合です。

② 宛先……………

[経路](①)欄で指定した転送先インターフェースのIPアドレスを設定します。

③ サブネットマスク……

[宛先](②)欄で指定した転送先IPアドレスに対するサブネットマスクを設定します。

④ ゲートウェイ……………

[経路](①)欄で指定した転送先インターフェースのゲートウェイを設定します。
※[宛先](②)欄で指定した転送先IPアドレスのネットワーク部と同じに設定します。

⑤ メトリック……………

[経路](①)欄で指定した転送先インターフェースまでのコストを、「0(空白)~15」の範囲で入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

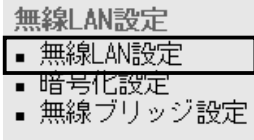
⑥ 〈追加〉……………

設定した内容(①~⑤)が登録され、[現在の登録]欄と[IP経路情報]項目(☎P54)に表示されます。

5-3. 「無線LAN設定」メニュー

■ 「無線LAN設定」画面

〈BSSID〉



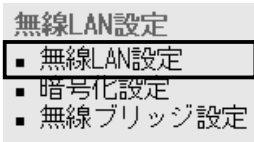
本製品の[BSSID]です。
無線ブリッジ接続する相手側の機器に登録します。



※「無線LAN設定」メニューの「無線ブリッジ設定」画面に表示する[BSSID]と同じです。(※P64)

※「情報表示」メニューの「ネットワーク情報」画面に表示される[本体MACアドレス]とは異なります。(※5-5章)

〈無線LAN設定〉



本製品の無線ブリッジ接続についての基本設定です。

無線LAN設定		
SSID	①	LG
チャンネル	②	11 (2462MHz)
11g保護機能	③	有効
パワーレベル	④	高
Super Gを使用	⑤	しない
長距離通信モードを使用	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

① SSID

ビル間通信(無線ブリッジ接続)する相手の[BSSID]を自動検出するとき、設定します。

設定した[SSID]と同じ機器を検出すると、[BSSID]を「無線ブリッジ設定」画面(※P65)にある[ステーションリスト]項目の[自動検出された端末]欄に表示します。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。(出荷時の設定：LG)

※本製品の[SSID]は、相手の[BSSID]検出に使用しているだけですので、[SSID]の設定が相手と異なる場合でも、無線ブリッジ接続に影響しません。

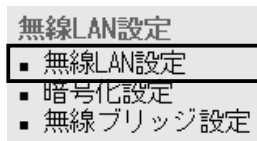
※近くに、同じ[SSID]の弊社製無線アクセスポイントが存在する場合は、その無線アクセスポイントの[BSSID]も表示されることがありますのでご注意ください。

※[SSID]と[ESS ID]は、同じ意味で使用しています。本製品以外の無線LAN機器では、[ESS ID]と表記されている場合があります。

5 設定メニューについて

5-3. 「無線LAN設定」メニュー

■ 「無線LAN設定」画面
〈無線LAN設定〉(つづき)



無線LAN設定		
SSID	①	LG
チャンネル	②	11 (2462MHz)
11g保護機能	③	有効
パワーレベル	④	高
Super Gを使用	⑤	しない
長距離通信モードを使用	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

② チャンネル……………

本製品のビル間通信に使用するチャンネルです。
無線ブリッジ接続する相手と同じチャンネルに設定します。
(出荷時の設定：11(2462MHz))

※近くに2.4GHz帯(IEEE802.11b規格およびIEEE802.11g規格)の無線アクセスポイントやビル間通信機器が存在するときは、電波干渉を避けるため、本製品の「チャンネル」は、それらの無線ネットワークグループと4チャンネル以上空けて設定してください。
それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、隣接する無線ネットワークグループを、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

※本製品は、14チャンネルでの運用はできません。

〈各チャンネルの帯域〉



■「無線LAN設定」画面
 <無線LAN設定> (つづき)

③ 11g保護機能 ………

無線LAN規格を制限することで、隣接する無線LAN機器との混信を防止し、それらの影響による通信速度の低下を緩和する機能です。 (出荷時の設定：有効)

◎「無効」：隣接する[IEEE802.11g]規格、または[IEEE802.11b]規格の無線LAN機器から影響を受けることがあります。

◎「有効」：隣接する[IEEE802.11b]規格の無線LAN機器から影響を受けたとき、[IEEE802.11g]規格の通信を優先します。

◎「g専用」：隣接する[IEEE802.11b]規格の無線LAN機器から影響を受けません。

④ パワーレベル ………

本製品に内蔵された無線LANカードの送信出力を設定します。 (出荷時の設定：高)

高/中/低(3段階)の中から選択できます。

本製品の最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。

パワーレベルを低くすると、それに比例して伝送距離も短くなります。

<パワーレベルを低くする目的について>

◎本製品から送信される電波が広範囲に漏れるのを軽減したいとき

◎通信エリアを制限してセキュリティを高めたいとき

◎比較的狭いエリアに複数台のビル間通信機器が設置された環境で、隣接する無線LAN機器との電波干渉を無くして、通信速度の低下などを軽減したいとき

⑤ Super Gを使用 ………

米国Atheros Communications社が開発した、独自の無線LAN高速化技術です。

「しない」、「する(圧縮なし)」、「する(圧縮あり)」から選択できます。 (出荷時の設定：しない)

「する(圧縮あり)」を選択すると、通信速度がさらに向上します。

※通信を行う相手間で、設定が異なると通信できません。

5 設定メニューについて

5-3. 「無線LAN設定」メニュー

■ 「無線LAN設定」画面

〈無線LAN設定〉 (つづき)

無線LAN設定

■ 無線LAN設定

■ 暗号化設定

■ 無線ブリッジ設定

無線LAN設定		
SSID	①	Lg
チャンネル	②	11 (2462MHz)
11g保護機能	③	有効
パワーレベル	④	高
Super Gを使用	⑤	しない
長距離通信モードを使用	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

⑤ Super Gを使用 …… (つづき)

※すでに圧縮されているデータを取り扱う機会が多い場合、「する(圧縮あり)」を使用して、圧縮されたデータを転送しているあいだは、速度が低下する原因となります。

このような場合は、「する(圧縮なし)」に設定してご使用ください。

※暗号化[WEP(RC4)、OCB AES]と、[Super G]の「する(圧縮あり)」を併用するときは、[キーインデックス] (※P62)を通信相手と同じに設定してください。

[キーインデックス]の設定が通信相手と異なると、通信できません。

⑥ 長距離通信モード を使用……………

極端に通信速度が遅い場合に設定します。

(出荷時の設定：しない)

※通信相手との距離が4.0km未満の環境の場合は、出荷時の設定でご使用ください。

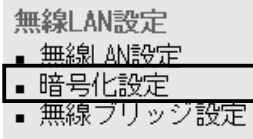
通信相手との距離が4.0km未満の環境で設定すると、通信速度低下の原因になります。

※長距離通信を行う場合、直線の見通し距離だけでなく、電波の反射や干渉の影響およびフレネルゾーン (※3-7章)などを考慮して、アンテナを設置する必要があります。

長距離通信モードを設定しても改善されない場合は、これらも原因と考えられます。

■「暗号化設定」画面

〈暗号化設定〉



無線ブリッジ接続で通信するデータを保護するために、無線送信データを暗号化するための設定です。

暗号化設定	
暗号化方式 ①	なし
キージェネレータ ②	
キーインデックス ③	1

① 暗号化方式……………

無線送信データを暗号化する方式と暗号化ビット数を選択します。
(出荷時の設定：なし)

暗号化方式には、「RC4」、「OCB AES」があります。

※互換性がありませんので、通信を行う相手間で、ビット数も含め同じ方式を選択してください。

◎WEP RC4：

無線LAN機器の暗号化として一般によく搭載されている暗号化方式です。

この方式は、RC4(Rivest's Cipher 4)アルゴリズムを元に構成されていて、暗号化するデータのブロック長が8ビットで、暗号化鍵(キー)の長さを選択できます。

※選択できる暗号化鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)/152(128)ビットです。

◎OCB AES：

[WEP RC4]より強力で、標準化が推進されている次世代の暗号化方式です。

暗号化するデータのブロック長と暗号化鍵(キー)の長さは、128(128)ビットです。

② キージェネレータ……

[WEPキー]項目の各キー番号「1」～「4」のテキストボックスに、暗号化鍵(キー)を生成するための文字列を設定します。

通信を行う相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字/記号)を31文字以内で設定します。

なお、入力した文字はすべて、「*(アスタリスク)」または「●(黒丸)」で表示します。
(表示例：●●)

入力後、〈登録〉をクリックすると、生成された暗号化鍵(キー)を表示します。

5 設定メニューについて

5-3. 「無線LAN設定」メニュー

■ 「暗号化設定」画面

〈暗号化設定〉(つづき)

無線LAN設定

■ 無線LAN設定

■ 暗号化設定

■ 無線ブリッジ設定

暗号化設定		
暗号化方式	①	なし
キージェネレータ	②	
キーインデックス	③	1

② キージェネレータ…… (つづき)

生成される暗号化鍵(キー)の桁数および文字数は、設定された「暗号化方式」によって異なります。

[P33] ■ 暗号化鍵(キー)値の入力について]

※[暗号化方式]①欄で、「なし」(出荷時の設定)が選択されているときは、入力できません。

※[WEPキー]項目の[入力モード]欄で、「ASCII文字」を設定した場合は、キージェネレータを使用できません。

※通信相手間で文字列が異なる場合、暗号化されたデータを復号できないため、通信できません。

※[WEP RC4]の場合、先頭の24ビットは、一定時間ごとに内容を自動更新して設定されますので、[WEPキー]項目のテキストボックスには表示されません。

③ キーインデックス……

※ご使用になる弊社製無線LAN機器によっては、「キーID」と記載されていますが、「キーインデックス」と同じ意味として使用されています。

データの暗号化に使用する鍵(キー)番号を設定します。

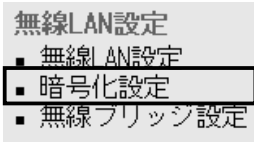
(出荷時の設定：1)

選択できる範囲は、「1」～「4」です。

※通信相手と同じ暗号化鍵(キー)を[WEPキー]項目の各鍵(キー)を番号「1」～「4」のテキストボックスに設定されていれば、通信相手と鍵(キー)番号の設定が異なっても通信できます。(P34)

■「暗号化設定」画面(つづき)

〈WEPキー〉



暗号化鍵(キー)を直接入力するための設定です。

WEPキー	
入力モード	① <input checked="" type="radio"/> 16進数 <input type="radio"/> ASCII文字
1	00-00-00-00-00
2	00-00-00-00-00
3	00-00-00-00-00
4	00-00-00-00-00

②

① 入力モード……………

暗号化鍵(キー)をキーインデックス「1」～「4」のテキストボックスに入力する方法を選択します。

(出荷時の設定：16進数)

※入力モードを変更したときは、「暗号化設定」画面の〈登録〉ボタンをクリックしてから、暗号化鍵(キー)を入力してください。

※ASCII文字を設定した場合は、キージェネレータを使用できません。

② 暗号化鍵(キー)入力用
ボックス……………

キージェネレータを使用しないとき、暗号化および復号に使用する暗号化鍵(キー)を、[入力モード]欄で設定された方法で、直接入力します。

(出荷時の設定：00-00-00-00-00)

※16進数で入力する場合、16進数表記(☞P31)で使用する以外のアルファベットを入力しても無効です。

※通信相手間で使用する[インデックスキー]の番号に対する暗号化鍵(キー)の内容を同じに設定してください。暗号化鍵(キー)が通信相手間で異なると通信できません。(☞P34)

5 設定メニューについて

5-3. 「無線LAN設定」メニュー(つづき)

■「無線ブリッジ設定」画面

〈BSSID〉

本書57ページで説明する[BSSID]と同じです。

無線LAN設定

- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 無線ブリッジ設定

BSSID

00-90-C7-99-00-01

※この画面に表示される[BSSID]を無線ブリッジ接続する相手側の機器に登録してください。

〈ステーションリスト〉

無線LAN設定

- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 無線ブリッジ設定

ビル間通信(無線ブリッジ接続)する相手の[BSSID]を設定します。

ステーションリスト

登録の追加 ①

BSSID	通信速度	
<input type="text"/>	自動	追加

自動検出された端末 ②

BSSID	通信速度	
00-90-C7-99-00-02	自動	追加

① 登録の追加……………

登録しない相手とは、無線ブリッジ接続できません。
〈追加〉をクリックすると、ここで入力した[BSSID]と[通信速度]が登録されます。

[BSSID] ……………

無線ブリッジ接続する相手(SB-510/SB-510EA)の[BSSID]を、12桁(16進数)の半角英数字で入力します。
(入力例：00-90-c7-99-00-02、0090c7990002)
※上記の入力例は、同じ[BSSID]として処理されます。
※最大256台分の[BSSID]が登録できます。

[通信速度]……………

登録した相手にデータを送信する速度を設定します。
(出荷時の設定：自動)

「自動」のときは、環境の変化などで通信が不安定になると、通信が続行可能な速度に自動(1~54Mbps)で切り替わります。

※IEEE802.11b規格の通信速度に固定するときは、11/5.5/2/1Mbpsの中から選択します。

※IEEE802.11g規格の通信速度に固定するときは、54/48/36/24/18/12/9/6Mbpsの中から選択します。

■「無線ブリッジ設定」画面

〈ステーションリスト〉(つづき)

② 自動検出された端末…

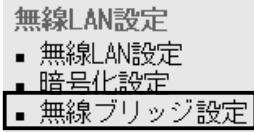
[チャンネル]と[SSID]が、本製品と同じ設定の弊社製ビル間通信ユニットを検出すると、その機器の[BSSID]を表示します。

検出された機器とビル間通信する場合は、この欄の右に表示された〈追加〉をクリックすると、検出された[BSSID]を登録できます。

※検出結果を最大32件まで表示します。

※近くに、同じ条件の弊社製無線アクセスポイントや無線AP間通信する機器が存在する場合は、それらの機器の[BSSID]と併せて検出されますのでご注意ください。

〈登録済み端末リスト〉



[ステーションリスト]項目から登録した[BSSID]と[送信速度]を表示します。

登録済み端末リスト			
BSSID	通信速度	信号強度	
00-90-C7-99-00-02	自動 <input type="button" value="変更"/>	49	<input type="button" value="削除"/>

このリストに表示する[BSSID]を持つ弊社製ビル間通信ユニットと、設定した速度で無線ブリッジ接続できます。通信中に表示される[信号強度]は、「15」以上であれば、正常に通信可能です。

※登録を削除するときは、該当する欄の右端にある〈削除〉をクリックします。

※登録した相手との送信速度を変更するときは、数値を選択後、〈変更〉をクリックします。

※無線ブリッジ接続する相手の[BSSID]だけを登録してご使用ください。

それ以外の相手の[BSSID]が複数登録されている場合は、速度低下の原因になります。

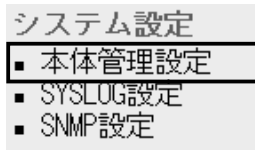
5 設定メニューについて

5-4. 「システム設定」メニュー

■ 「本体管理設定」画面

〈管理者ID設定〉

本製品の設定画面へのアクセス制限を設定します。



管理者ID設定	
管理者ID ①	<input type="text"/>
管理者パスワード ②	<input type="password"/>
パスワードの確認入力③	<input type="password"/>

① 管理者ID ……………

本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

(入力例：sb510)

[管理者ID]を設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。

② 管理者パスワード……

[管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」または「●(黒丸)」で表示されます。

(入力例：sb510 表示例：●●●●●)

[管理者パスワード]を設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。

③ パスワードの確認入力

確認のために、管理者パスワードを再入力します。

(表示例：●●●●●)

■「本体管理設定」画面(つづき)

〈管理者IPアドレス〉

システム設定

- 本体管理設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定

本製品の設定画面へのアクセスをIPアドレスで制限するときの設定です。

管理者IPアドレス	
管理者IP 1	<input type="text"/>
管理者IP 2	<input type="text"/>
管理者IP 3	<input type="text"/>

本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者が本製品に有線でアクセスするパソコンのIPアドレスを3台まで登録できます。(入力例：192.168.0.5)

※[管理者IPアドレス]を設定すると、IPアドレスが登録されたパソコン以外は、次回から本製品の設定画面にアクセスできなくなります。

※空白の場合は、本製品に接続するすべてのパソコンが設定画面にアクセスできます。

※VLAN(Virtual LAN)機能(☞P47)と併せて使用する場合は、本製品に設定した[マネージメントID]とも一致しないと、アクセスできなくなります。

■「SYSLOG設定」画面

〈SYSLOG設定〉

システム設定

- 本体管理設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定

指定したホスト(端末)にログ情報などを出力する設定を行います。

SYSLOG設定		
DEBUGを使用	①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
INFOを使用	②	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
NOTICEを使用	③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ホストアドレス	④	<input type="text"/>
ファシリティ	⑤	<input type="text" value="1"/>

① DEBUGを使用 ………

各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。(出荷時の設定：しない)

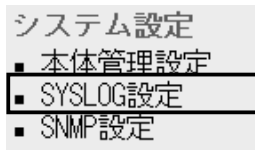
② INFOを使用 ………

INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。(出荷時の設定：しない)

5 設定メニューについて

5-4. 「システム設定」メニュー

■ 「SYSLOG設定」画面 〈SYSLOG設定〉 (つづき)



SYSLOG設定		
DEBUGを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
INFOを使用	②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NOTICEを使用	③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
ホストアドレス	④	<input type="text"/>
ファシリティ	⑤	<input type="text" value="1"/>

③ NOTICEを使用 ……

NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
(荷時の設定：する)

④ ホストアドレス……………

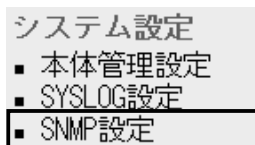
SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑤ ファシリティ……………

SYSLOGのファシリティを入力します。
通常「1」を使用します。
(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～23」です。

■ 「SNMP設定」画面

〈SNMP設定〉



TCP/IPネットワーク上の各端末から情報を収集してネットワークを管理するとき設定します。

SNMP設定		
SNMPを使用	①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
コミュニティID(GET)	②	<input type="text" value="public"/>

① SNMPを使用 ……

SNMP機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

② コミュニティID(GET)

本製品から設定情報をSNMP管理ツール側で読み出すことを許可するIDを設定します。
(出荷時の設定：public)
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。

5-5. 「情報表示」メニュー

■ 「ネットワーク情報」画面

〈ネットワーク インターフェース リスト〉

情報表示

■ ネットワーク情報

「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング設定」画面にある[IP経路情報]項目に表示された[経路] (※P55) について、その詳細を表示します。

ネットワーク インターフェース リスト		
インターフェース	IPアドレス	サブネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

〈ブリッジポート情報〉

情報表示

■ ネットワーク情報

各ポートごとの通信状況とパケットの数を表示します。

ブリッジポート情報			
ポート	通信情報		
	状況	送信パケット数	受信パケット数
Ethernet ①	通信中	9	18
Wireless ②	通信中	8	0
	通信中	8	0
Wireless Bridge ③ 00-90-C7-90-00-02	通信中	8	0
	通信中	8	0

① Ethernet ……………

[有線LAN]ポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

② Wireless ……………

無線通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

③ Wireless Bridge ……

無線ブリッジ接続の通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

また、通信相手側の[BSSID]を表示します。

〈本体MACアドレス〉

情報表示

■ ネットワーク情報

本製品のMACアドレスを表示します。

※このMACアドレスは、本製品の底面部に貼られているシリアルシールにも12桁で記載されています。

本体MACアドレス
00-90-C7-90-00-C7

5 設定メニューについて

5-6. 「メンテナンス」メニュー

■ 「ファームウェアの更新」画面

〈ファームウェアファイルを指定〉

メンテナンス

- ファームウェアの更新
 - 設定初期化
 - 設定保存

本製品のファームウェアを、ダウンロードした最新のファームウェアファイルと書き替えるときに使用します。



① 〈参照...〉ボタン…………

このボタンをクリックして表示される「ファイルの選択」画面から、パソコンに保存しているファームウェアファイル(拡張子：.dat)を選択します。

選択されたファームウェアファイルの保存先がテキストボックスに表示されます。

※保存先の階層をテキストボックスに直接入力することもできます。

② 〈書き込み〉ボタン …

テキストボックスに表示されたファームウェアファイルを(拡張子：.dat)を本製品に書き込みます。

本製品の設定画面が表示されるまで、そのまま待ちます。

● 「ファームウェア更新中」→ 「再起動しています。しばらくおまちください。」の順に表示します。

〈「Firm Utility使用」モード〉

メンテナンス

- ファームウェアの更新
 - 設定初期化
 - 設定保存

「Firm Utility」(※6-5章)を使用するとき、実行します。



[移行する]欄のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れ、〈実行〉をクリックします。

● 次の画面を表示します。

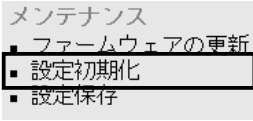
「Firm Utility使用」モードに移行しました。
通常動作は全て停止しています。
通常モードに戻るには本体を再起動して下さい。

※ 「Firm Utility使用」モードに移行後も、本製品に設定された内容で動作します。

※ 「Firm Utility使用」モードに移行しないと、「Firm Utility」と本製品が通信できません。

■「設定初期化」画面

〈設定初期化〉



本製品の設定内容をすべて出荷時の状態に戻します。



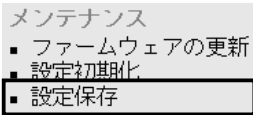
[初期化する]欄のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れ、〈実行〉をクリックします。

- 次の画面を表示後、出荷時の設定に戻ります。

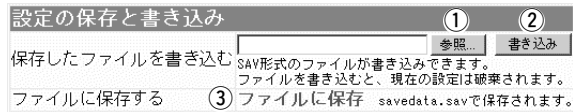
再起動しています。しばらくお待ちください。

■「設定保存」画面

〈設定の保存と書き込み〉



本製品の設定内容を設定ファイルとして保存したり、本製品に書き込んだりします。



①〈参照...〉ボタン……

このボタンをクリックして表示される「ファイルの選択」画面から、[ファイルに保存する](③)欄の操作で保存した設定ファイル(拡張子：.sav)を選択します。

選択された設定ファイルの保存先がテキストボックスに表示されます。

※設定ファイルの保存先の階層をテキストボックスに直接入力することもできます。

②〈書き込み〉ボタン …

テキストボックスに表示された設定ファイル(拡張子：.sav)を本製品に書き込みます。

③〈ファイルに保存〉……

「ファイルに保存」の上をクリックすると表示される「ファイルのダウンロード」画面で、本製品のすべての設定内容を、設定ファイル(拡張子：.sav)として、パソコンに保存します。

5 設定メニューについて

5-6. 「メンテナンス」メニュー

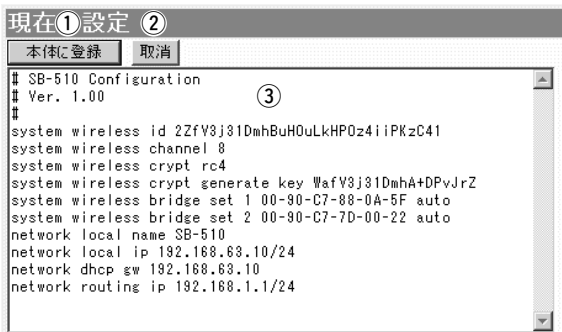
■ 「設定保存」画面(つづき)

〈現在の設定〉

メンテナンス

- ファームウェアの更新
- 設定初期化
- 設定保存

本製品の設定変更内容を確認したり、表示された内容を本製品に書き込みします。



① 〈本体に登録〉ボタン

「内容表示」(③)部に表示された内容を、本製品に書き込みます。

※[設定の保存と書き込み]項目(☞P71)の「ファイルに保存」をクリックして保存した設定ファイル(拡張子:.sav)は、このボタンを使用して書き込みできません。

② 〈取消〉ボタン ………

「内容表示」(③)部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、変更前の内容に戻します。

※〈本体に登録〉をクリックすると、変更前の内容には戻りません。

③ 「内容表示」画面 ………

基本的な設定と初期値から変更された設定を表示します。

この画面内容を設定ファイルとしてパソコンに保存するときは、[設定の保存と書き込み]項目(☞P71)を使用してください。

※各画面で設定されたSSID、パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。

そのため、保存された設定ファイルよりこれらの情報が外部に漏れることはありません。

この章では、

本製品の設定内容保存や初期化、ファームウェアのバージョンアップを行う手順などについて説明しています。

必要なおきにお読みください。

※本書で説明する「Firm Utility」は、Macintoshには対応していません。

ファームウェアのアップデートが必要な場合は、Windows搭載のパソコンをご用意ください。

6-1. 設定内容の確認または保存	74
6-2. 保存された設定の書き込み	76
6-3. 設定を出荷時の状態に戻す	77
A) <MODE> ボタンを使う	77
B) 設定画面を使う	79
6-4. ファームウェアをバージョンアップする	80
■ ファームウェアについて	80
■ バージョンアップについてのご注意	80
■ 設定画面を使う	81
6-5. 「Firm Utility」の使いかた	82
■ 「Firm Utility使用」モードに移行する	82
■ 初期化またはバージョンアップの操作	83
6-6. 故障のときは	84

6 保守について

6-1. 設定内容の確認または保存

本製品の設定画面で変更された内容を確認したり、その内容を設定ファイルとしてパソコンに保存できます。

設定を保存しておく、と、予期せぬ事故によって設定内容が失われたときに利用できます。

〈確認と保存のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセス(※2章：Step4.)して、「メンテナンス」メニュー→「設定保存」の順にクリックします。
 - 変更された設定内容を「設定保存」画面の[現在の設定]項目に表示します。
2. [設定の保存と書き込み]項目の[ファイルに保存する]欄から[ファイルに保存]をクリックします。
 - 「ファイルのダウンロード」画面(※P75)を表示します。
3. 〈保存(S)〉をクリックします。
 - 「名前を付けて保存」画面(※P75)を表示します。
4. [保存する場所(I)]を選択して、〈保存(S)〉をクリックします。
 - 「.sav」の拡張子がついた設定ファイルが、選択した場所に保存されます。

3. クリック

1. クリック

2. クリック

出荷時から変更された設定内容を [現在の設定]項目に表示します。
※出荷時は、本製品の基本的な設定内容だけ表示します。

設定保存

設定の保存と書き込み

保存したファイルを書き込む。SAV形式のファイルが書き込みできます。
ファイルを書き込む。現在の設定は継承されます。
ファイルに保存する

現在の設定

```
# SB-510 Configuration
# Ver. 1.00
#
system wireless id 22fV9j31DahBuH0uLkHP0z4iPKzC41
system wireless channel 8
system wireless crypt rc4
system wireless crypt generate key WafV9j31DahA+DPvJrZ
system wireless bridge set 1 00-30-C7-88-0A-5F auto
system wireless bridge set 2 00-30-C7-7D-00-22 auto
network local name SB-510
network local ip 192.168.0.1/24
network dhcp gw 192.168.0.1
!network routing ip 192.168.1.1/24
```

設定内容を直接削ったり書き替えたりして保存するには

[現在の設定]項目に表示される内容を、直接削ったり書き替えたりしても、保存される設定ファイルには反映されません。

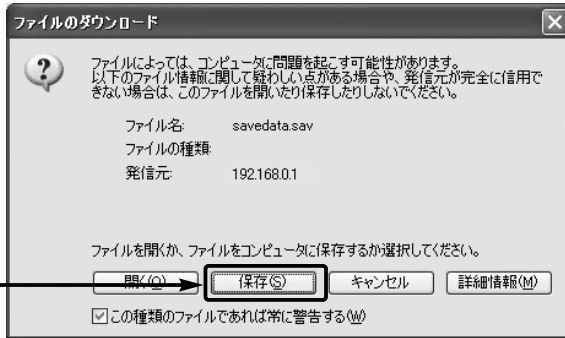
内容を直接削ったり書き替えたりした場合は、[ファイルに保存]をクリックする前に、[現在の設定]項目にある〈本体に登録〉をクリックして、その内容を本製品に反映させてから保存してください。

「設定保存」画面でのパスワード表示

SSID、パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容を、「設定保存」画面の[現在の設定]項目内に暗号化して表示しますので、保存された設定ファイルよりこれらの情報が外部に漏れることはありません。

〈確認と保存のしかた〉(つづき)

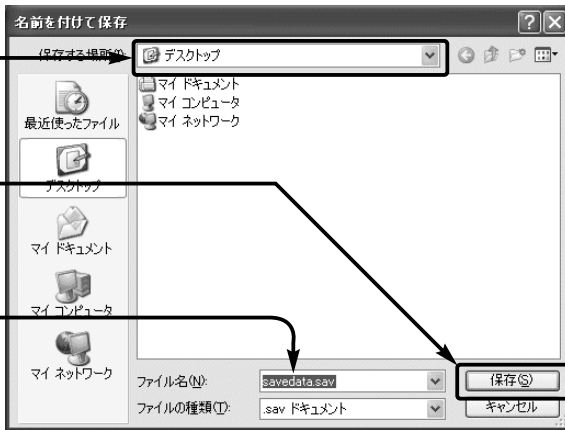
4. クリック



5. 選択する

6. クリック

表示されるファイル名は、任意に変更できます。



6 保守について

6-2. 保存された設定の書き込み

6-1章で保存した設定ファイルを本製品に書き込む手順を説明します。

1. 本製品の設定画面にアクセス(※2章：Step4.)して、「メンテナンス」メニュー→「設定保存」の順にクリックします。
 - 「設定保存」画面を表示します。
2. 「設定の保存と書き込み」項目で保存された設定ファイルへのリンク先を指定するため、〈参照〉をクリックします。
3. 表示された画面から保存された設定ファイルを指定して〈開く(O)〉をクリックすると、[保存したファイルを書き込む]欄のテキストボックスに、保存先が表示されます。
4. 通信している場合は、通信を終了してから、[設定の保存と書き込み]項目の[保存したファイルを書き込む]欄で、〈書き込む〉をクリックします。
 - 設定ファイルの内容を本製品に書き込みます。
5. 書き込み後、開いている設定画面を閉じて、新たに設定画面にアクセスしなおします。
 - ※ 現在開いている画面の状態では、書き込まれた設定に反映されません。

5. クリック

3. クリック

4. 確認する

1. クリック

2. クリック

保存する設定ファイルを書き込む前の内容です。
※出荷時の状態では、本製品の基本的な設定内容だけ表示します。

設定保存

設定の保存と書き込み

保存したファイルを書き込む

参照

書き込む

現在の設定

```
# SB-510 Configuration
# Ver. 1.00
#
system wireless id 22fV9j81DmhBuH0uLkHPDz4iPKzC41
system wireless channel 8
system wireless crypt rc4
system wireless crypt generate key WafY9j81Dmh4+DPvJrZ
system wireless bridge set 1 00-90-C7-80-0A-5F auto
system wireless bridge set 2 00-90-C7-7D-00-22 auto
network local name SB-510
network local ip 192.168.0.1/24
network dhcp gw 192.168.0.1
!network routing ip 192.168.1.1/24
```

6-3. 設定を出荷時の状態に戻す

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したいなど、そのときの状況に応じて次の3通りの方法で設定内容を出荷時の状態に戻す(初期化する)ことができます。

Ⓐ 〈MODE〉ボタンを使う

Ⓑ 設定画面を使う(※P79)

■ 「Firm Utility」を使う(※6-5章)

再起動後は、「192.168.0.1(出荷時の設定)」で動作します。

初期化によって、パソコンに設定されたIPアドレスのネットワーク部が本製品と異なったときは、アクセスできなくなりますので、必要に応じてパソコンのIPアドレスを変更(※2章：Step2.)してください。

Ⓐ 〈MODE〉ボタンを使う

この方法で初期化を実行すると、すべての設定項目が出荷時の状態になります。

本製品に設定されたIPアドレスが不明な場合など、本製品の設定画面が呼び出せないときに、次の手順で初期化できます。

〈初期化のしかた〉

- 1.SA-3に接続するDCコネクタをはずして、電源を切ります。
- 2.本製品とSA-3の接続を除くすべてのネットワーク機器を本製品からはずします。
- 3.〈MODE〉ボタンを押しながらACアダプターをSA-3に接続して、電源を入れます。
- 4.[PWR](緑)ランプと[MODE](緑)ランプが同時点滅に切り替わったら、〈MODE〉ボタンを離します。
 - 「設定初期化」モードに移行して、出荷時の設定で動作を開始します。
 - ※移行しないときは、本製品の電源を再投入して、はじめからやりなおしてください。
- 5.IPアドレスを「192.168.0.10」に固定したパソコン(※2章：Step2.)を本製品に接続(※2章：Step3.)して、Windowsを起動します。
 - 本製品の[LAN](赤)ランプが点灯します。
 - ※[LAN](赤)ランプが点灯しないときは、SA-3の極性反転スイッチを切り替えてください。
- 6.WWWブラウザを起動して、本製品の出荷時のIPアドレス(192.168.0.1)を指定します。

【「設定初期化」モードについて】

〈MODE〉ボタンの操作で「設定初期化」モードに移行すると、実際に初期化操作(次ページ手順7.の操作)が行われるまで、一時的に本製品の設定内容を出荷時の設定に置き替えます。

手順7.の操作をしないで、本製品の電源を再投入すると、元の状態に戻ります。

※手順7.の画面に表示されるIPアドレスとサブネットマスクは、初期化実行前の設定値です。

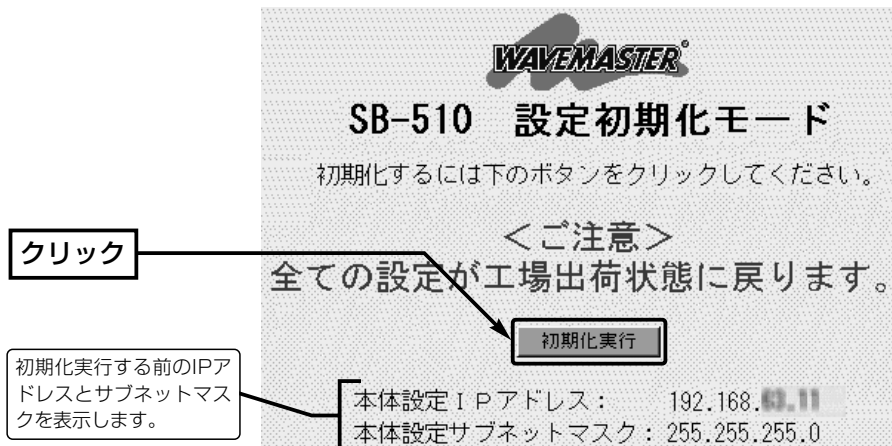
6 保守について

6-3. 設定を出荷時の状態に戻す

④<MODE> ボタンを使う(つづき)

7. 「設定初期化モード」画面が表示されたら、<初期化実行> をクリックします。

- 画面には、初期化実行前のIPアドレスとサブネットマスクが表示されます。



8. 本製品のランプが「設定初期化」モードに移行する前の状態に戻って、「ネットワーク設定」メニュー内の画面を表示したら、本製品の初期化が完了です。

- 再起動中は、次の画面を表示します。

再起動しています。しばらくお待ちください。

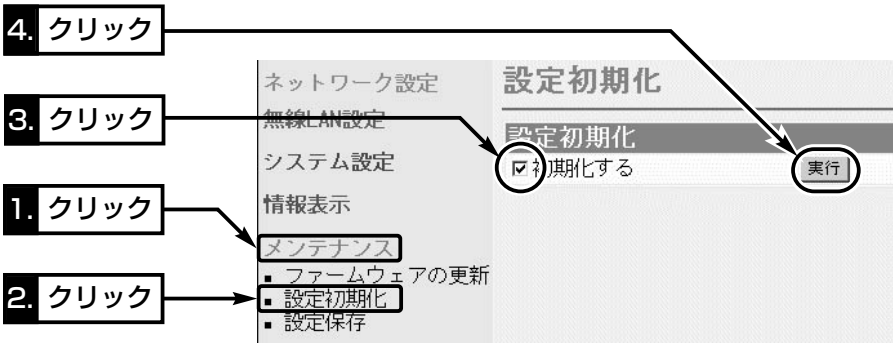
6-3. 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

B 設定画面を使う

本製品に設定されたIPアドレスがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、本製品の設定画面を使用してすべての設定を出荷時の状態に戻せます。

〈初期化のしかた〉

1. 本製品の設定画面にアクセス(※2章：Step4.)して、「メンテナンス」メニュー→「設定初期化」の順にクリックします。
 - 「設定初期化」画面を表示します。
2. 「初期化する」欄のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。
3. 「実行」をクリックします。



4. 次の画面を表示後、本製品の初期化が完了します。

再起動しています。しばらくお待ちください。

6 保守について

6-4. ファームウェアをバージョンアップする

バージョンアップする方法には、次の2通りがあります。

- 設定画面を使う(☞P80～P81)
- 「Firm Utility」を使う(☞P80、P82)

■ ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。バージョンアップの作業を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。

バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。



■ バージョンアップについてのご注意

- ◎「Firm Utility」を使用する(☞6-5章)ときは、ファームウェア転送時のエラー防止のため、パソコンと本製品をSA-3を介して1対1で接続してください。
- ◎Windows XPやウィルス対策ソフト、またはインターネットセキュリティソフトをご使用の場合、それらのファイアウォール機能を無効にしてください。
ファイアウォール機能が動作していると、バージョンアップ用ファームウェアファイル転送時、「本体が見つかりません。」と表示され、転送が阻止されることがあります。

◆記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますので、次のことを守って作業を始めてください。

- ◎「Firm Utility」は、弊社製無線LAN機器以外の製品で使用しないでください。
- ◎本製品の設定ファイルや弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp/>)より提供されるアップデート用ファームウェアファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

6-4. ファームウェアをバージョンアップする(つづき)

■ 設定画面を使う

本製品の設定画面にアクセスを許可されたパソコンを使用してバージョンアップする手順を説明します。

※日常、管理者以外のパソコンからバージョンアップできないように、設定画面へのアクセス制限の設定(※4-2章)をおすすめします。

〈バージョンアップのしかた〉

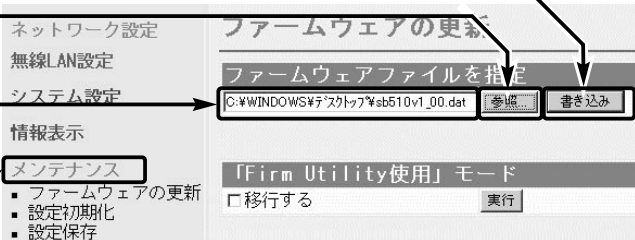
1. 本製品の設定画面にアクセス(※2章：Step4.)して、「メンテナンス」メニューをクリックします。
 - 「ファームウェアの更新」画面を表示します。
2. ダウンロードした本製品の新しいファームウェアファイル(拡張子：dat)へのリンク先を[ファームウェアファイルを指定]項目のテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉をクリックして選択します。
 - 選択したファームウェアファイルの保存先をテキストボックスに表示します。
3. 〈書き込み〉をクリックします。
 - 選択したファームウェアファイルの書き込みを開始します。

4. クリック

2. クリック

3. 確認する

1. クリック



△注意：

表示が右の状態のときは、本製品の設定画面を表示するまで、ご使用のパソコンや本製品の電源を切らないでください。

ファームウェア更新中

ファームウェア更新中は絶対に本体の電源を切らないでください。
ファームウェアの更新が完了すると、本体は自動で再起動します。

再起動しています。しばらくお待ちください。

【バージョンアップにかかる時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に転送して再起動が完了するまでの時間の目安です。

- 転送 = 30～60秒
- 再起動 = 10秒

6 保守について

6-5. 「Firm Utility」の使いかた

「Firm Utility」を使用して、本製品の初期化やファームウェアのバージョンアップをする手順について説明します。

「Firm Utility」は、本製品のCDに収録されています。(Pv)

◆「Firm Utility」をご使用になる前に◆

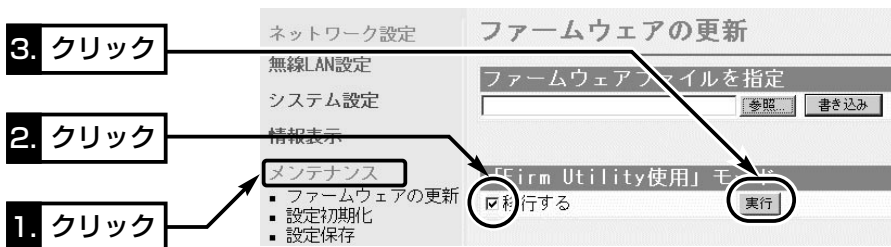
「Firm Utility」を使用して本製品の設定を出荷時の状態に戻したり、ファームウェアのバージョンアップするには、本製品に有線LANで接続できるパソコンから「Firm Utility使用」モードに切り替える必要があります。

切り替えないときは、「Firm Utility」を使用して初期化できません。

■「Firm Utility使用」モードに移行する

「Firm Utility使用」モードに移行しても、本製品の設定内容は変わりません。

1. 本製品の設定画面にアクセス(2章：Step4.)して、「メンテナンス」メニューをクリックします。
 - 「ファームウェアの更新」画面を表示します。
2. 「Firm Utility使用モード」項目で「移行する」欄のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。
3. 「実行」をクリックします。



4. 右の画面を表示して「Firm Utility使用」モードで動作を開始します。

- 「Firm Utility使用」モードで動作中は、本製品の[PWR](緑)ランプと[MODE](緑)ランプが交互点滅を繰り返します。

「Firm Utility使用」モードに移行しました。
通常動作は全て停止しています。
通常モードに戻るには本体を再起動して下さい。

【「Firm Utility使用」モードでのセキュリティーについて】

本製品の「無線LAN設定」メニューの「暗号化設定」画面で、暗号化機能が設定されている場合は、「Firm Utility使用」モードで動作しているときも有効です。

■ 初期化またはバージョンアップの操作

1. 本製品のCDをご使用のCDドライブに挿入します。

- CDドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。

2. 〈ファームウェア ユーティリティ〉をクリックします。

- 「Firm Utility」が起動します。

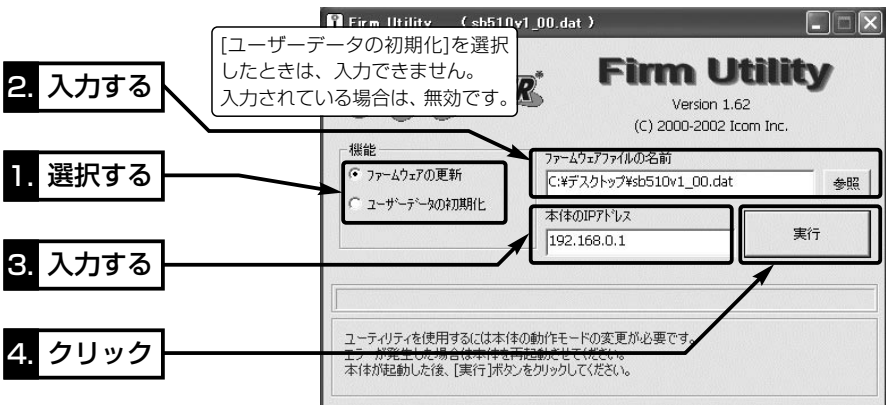
3. [機能]欄で、[ファームウェアの更新]、または[ユーザーデータの初期化]のラジオボタンをクリックします。

※バージョンアップするときは、ダウンロードした本製品の新しいファームウェアファイル(拡張子：dat)へのリンク先を[ファームウェアファイルの名前]のテキストボックスに直接入力するか、〈参照〉をクリックして選択します。

4. [本体のIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレス(出荷時の場合：192.168.0.1)を入力してから、〈実行〉をクリックします。

5. 「……が完了しました。」というメッセージが「Firm Utility」の画面に表示されたら、操作が完了です。

※操作完了後、本製品の設定画面にアクセスできないときは、本製品の電源を入れなおしてから、再度アクセスしてください。



△注意 「Firm Utility」実行中は、「Firm Utility」を終了したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
途中で作業を中断すると、データの消失や誤動作の原因になりますのでご注意ください。
画面に「……が完了しました。」と表示されるまでお待ちください。

6 保守について

6-6. 故障のときは

- **保証書について**

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたします
ので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- **修理を依頼されるとき**

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、
それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させて
いただきます。

- **アフターサービスについてわからないときは**

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

この章では、

Telnetによる接続やルーティングの設定例、設定画面の構成、設定項目の初期値、定格について説明しています。

7-1.Telnetで接続するには	86
■ Windows XP/Windows 2000の場合	86
■ Windows 98/98 SE/Meの場合	86
■ Telnetのオンラインヘルプについて	87
7-2.ルーティングの設定例	88
7-3.設定画面の構成について	90
7-4.設定項目の初期値一覧	92
7-5.機能一覧	93
7-6.定格	94
■ 一般仕様(SB-510/510EA)	94
■ アンテナ部(内蔵タイプ：SB-510)	94
■ 有線部	94
■ [Ethernet]プラグ仕様	94
■ 無線部	95
■ 本製品以外との通信について	95
7-7.用語解説	96

7 ご参考に

7-1. Telnetで接続するには

Telnetでの接続について説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■ Windows XP/Windows 2000の場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、<OK>をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス (出荷時の設定：192.168.0.1)
- ④ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面で設定(※4-2章)した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※出荷時は[User]と[Password]は設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
- ⑤ ログインメッセージ(Welcome to SB-510! You are administrator!)が表示されます。

■ Windows 98/98 SE/Meの場合

- ① Windowsを起動します。
- ② [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、<OK>をクリックします。
- ③ Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
- ④ [接続]ダイアログボックスが表示されます。
ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、〈接続(C)〉ボタンをクリックします。
ホスト名：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
ポート：telnet(23)
ターミナルの種類：vt100
- ⑤ [User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面で設定(※4-2章)した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※出荷時は[User]と[Password]は設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
- ⑥ ログインメッセージ(Welcome to SB-510! You are administrator!)が表示されます。

7-1. Telnetで接続するには(つづき)

■ Telnetのオンラインヘルプについて

オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

- ◎ コマンド一覧…………… [Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

- ◎ コマンドヘルプ…………… コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

- ◎ コマンド名の補完…………… コマンド名を先頭から途中まで入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。
例：cl[Tab]→clear
複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。
さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。
例：r[Tab]→re
re[Tab]→restart remote
res[Tab]→restart

7 ご参考に

7-2. ルーティングの設定例

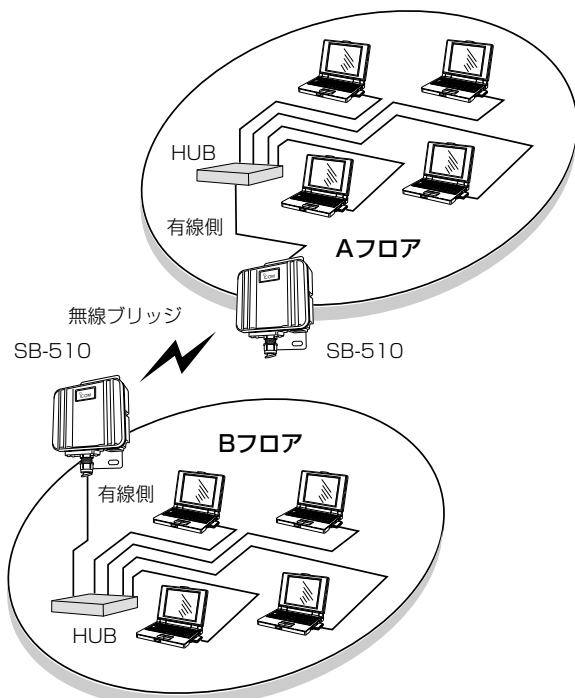
次のネットワーク構成を例に、経路を動的に作成する場合と静的に作成する場合の2通りの設定例を説明します。

【Aフロアの設定条件】

- 本製品のIPアドレス
[有線側]
192.168.0.1
[無線側]
192.168.1.1
- 有線端末のIPアドレス
192.168.0.10～
192.168.0.13(4個)

【Bフロアの設定条件】

- 本製品のIPアドレス
[有線側]
192.168.2.1
[無線側]
192.168.1.2
- 有線端末のIPアドレス
192.168.2.10～
192.168.2.13(4個)



※説明には、SB-510を使用し、SA-3を省略しています。

■ Aフロア側の設定

- ※前ページの図を例に説明しています。
- ※パソコンには、デフォルトゲートウェイとして、SB-510/SB-510EAの有線側IPアドレスを指定してください。

「LAN側IP設定」画面(※P46)

ルーティングモード設定		
ルーティングモードを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
本体名称/IPアドレス設定		
本体名称	SB-510	
ネットワークインターフェース	ネットワーク1	ネットワーク2
IPアドレス	192.168.0.1	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0

7-2. ルーティングの設定例 [■ Aフロア側の設定](つづき)

【経路を動的に作成する場合】

「RIP設定」画面(☞P53~54)

RIP設定

RIP設定: RIP

ネットワーク1側RIP動作: 送信も受信も行なう

ネットワーク2側RIP動作: 送信も受信も行なう

認証キー:

【経路を静的に作成する場合】

「ルーティング設定」画面(☞P56)

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
network1					追加

現在の登録

経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
network2	192.168.2.0	255.255.255.0	192.168.1.2	1	削除

■ Bフロア側の設定

※88ページの図を例に説明しています。

※パソコンには、デフォルトゲートウェイとして、SB-510/SB-510EAの有線側IPアドレスを指定してください。

「LAN側IP設定」画面(☞P46)

ルーティングモード設定

ルーティングモードを使用: しない 使用する

本体名称/IPアドレス設定

本体名称: SB-510

ネットワークインターフェース: ネットワーク1 ネットワーク2

IPアドレス: 192.168.2.1 192.168.1.2

サブネットマスク: 255.255.255.0 255.255.255.0

【経路を動的に作成する場合】

Aフロア側で説明した画面を参考に、同じ設定をします。

【経路を静的に作成する場合】

「ルーティング設定」画面(☞P56)

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
network1					追加

現在の登録

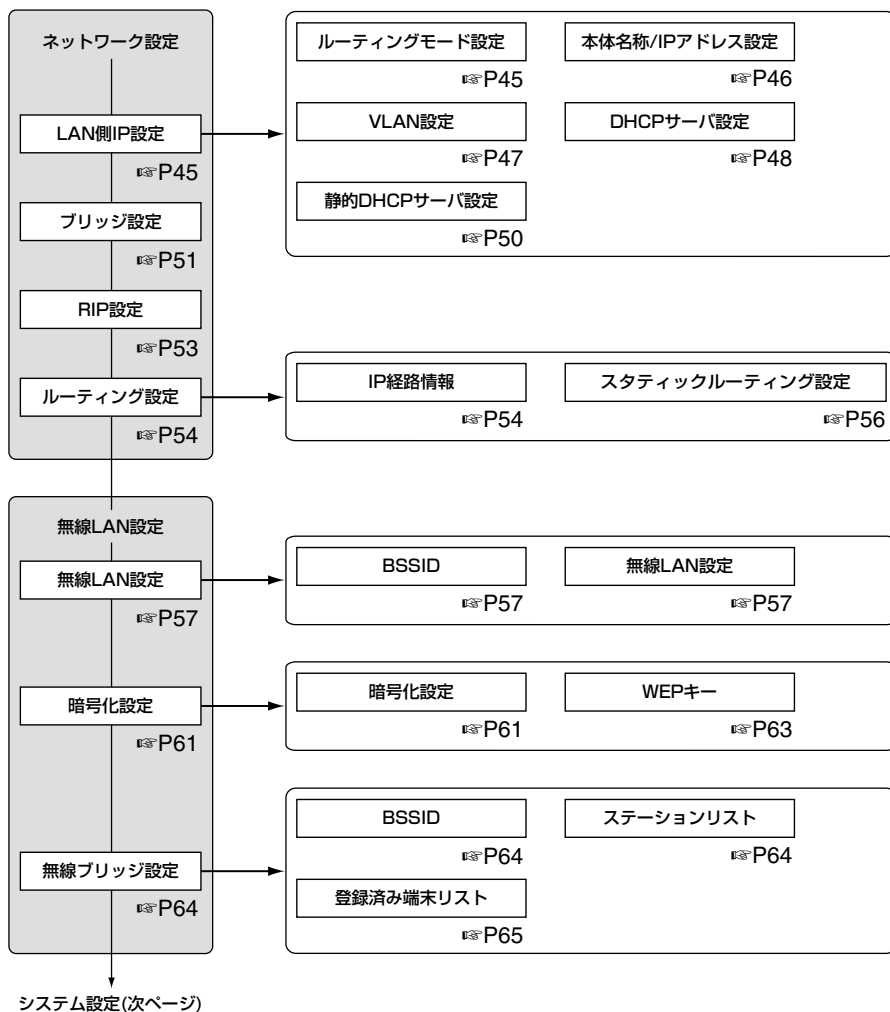
経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	
network2	192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.1.1	1	削除

7 ご参考に

7-3. 設定画面の構成について

WWWブラウザに表示される本製品の設定画面の構成です。

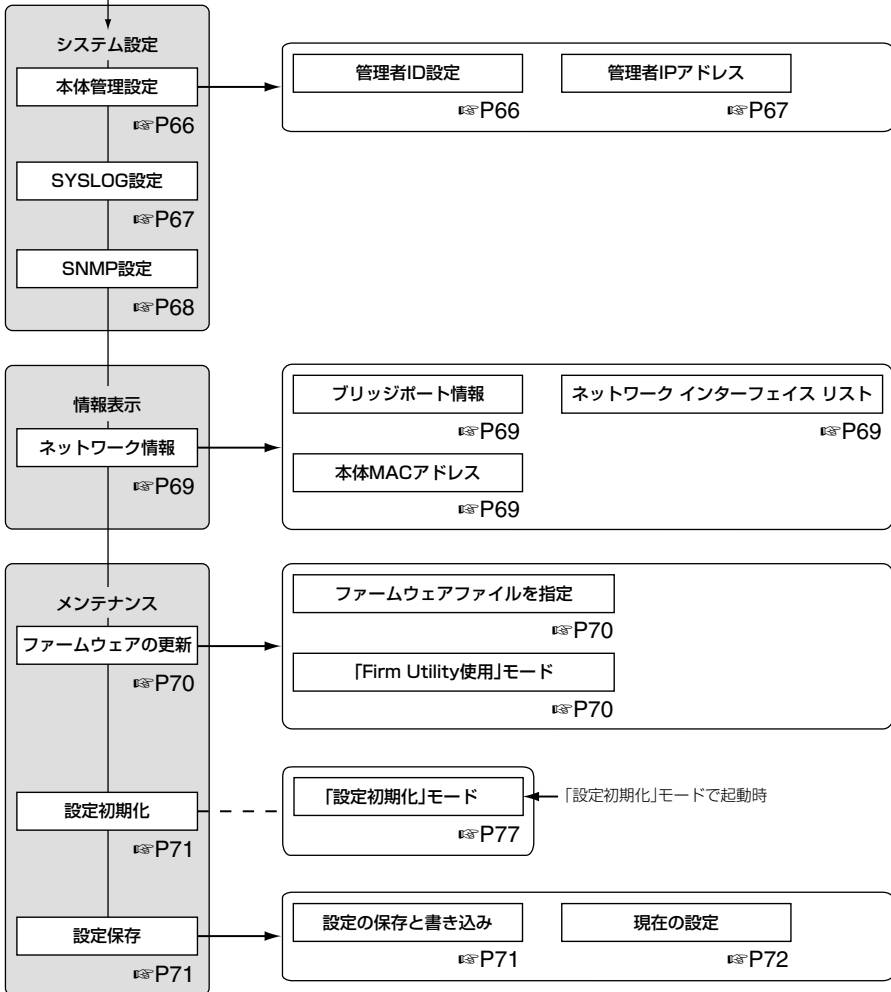
□ は、各メニューを示します。



7-3. 設定画面の構成について(つづき)

無線LAN設定(前ページ)

□ は、各メニューを示します。



7 ご参考に

7-4. 設定項目の初期値一覧

本製品の設定画面について、設定項目の初期値を示します。

■「ネットワーク設定」メニュー

「LAN側IP設定」画面

ルーティングモード設定

- ルーティングモードを使用：しない

本体名称/IPアドレス設定

- 本体名称：SB-510

「ネットワーク1」

- IPアドレス：192.168.0.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

「ネットワーク2」

- IPアドレス：192.168.1.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

VLAN設定

- VLANを使用：しない
- マネージメントID：0

DHCPサーバ設定

- DHCPサーバ機能を使用：しない
- 割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
- 割り当て個数：30個
- サブネットマスク：255.255.255.0
- デフォルトゲートウェイ：192.168.0.1
- リース期間：72時間

「ブリッジ設定」画面

ブリッジ設定

- スパンニングツリー機能を使用：しない
- ブリッジ優先度(Bridge Priority)：32768
- エージングタイム(Aging Time)：300
- マックスエイジ(Max Age)：20
- ハロータイム(Hello Time)：2
- 転送遅延(Forward Delay)：15
- パスコスト(Path Cost)：
 - 有線LAN：100
 - 無線LAN：200
- ポート優先度(Port Priority)：
 - 有線LAN：128
 - 無線LAN：128

「RIP設定」画面

RIP設定

- RIP設定：使用しない
- ネットワーク1側RIP動作：受信のみ
- ネットワーク2側RIP動作：受信のみ

■「無線LAN設定」メニュー

「無線LAN設定」画面

無線LAN設定

- SSID：LG(半角大文字)
- チャンネル：11(2462MHz)
- 11g保護機能：有効
- パワーレベル：高
- Super Gを使用：しない
- 長距離通信モードを使用：しない

「暗号化設定」画面

暗号化設定

- 暗号化方式：なし
- キーインデックス：1(暗号化設定時)

WEPキー

- 入力モード：16進数
- 1~4：00-00-00-00-00

■「システム設定」メニュー

「SYSLOG設定」画面

SYSLOG設定

- DEBUGを使用：しない
- INFOを使用：しない
- NOTICEを使用：する
- ファシリティ：1

「SNMP設定」画面

SNMP設定

- SNMPを使用：する
- コミュニティID(GET)：public

7-5. 機能一覧

■ 無線LAN機能

- [IEEE802.11b/g]無線LAN
- SSID(Service Set Identifier)
- 暗号化セキュリティー
WEP RC4(Wired Equivalent Privacy)
OCB AES(Offset Code Book Advanced Encryption Standard)
- 11g保護機能
- パワーレベル調整機能
- Super G
- VLAN機能
- 無線ブリッジ簡易設定機能(SSIDによる検索)

■ ルータ機能

- スタティックルーティング機能(有線-無線間)

■ ネットワーク管理機能

- SYSLOG
- SNMP

■ その他

- ルーティングプロトコル
TCP/IP(RIP、RIP2、スタティック)
- スパニングツリー機能
- RIP機能(RIP1、RIP2)
- DHCPサーバ機能
- DHCPスタティック機能
- 接続制限機能(管理者IP/管理者ID)
- WWWメンテナンス
- ファームウェアのバージョンアップ
- TELNETメンテナンス
- IEEE802.3af規格対応PoE

7 ご参考に

7-6. 定格

■ 一般仕様(SB-510/SB-510EA)

- 入 力 電 圧：DC48V±4.8V ※付属のSA-3を使用
- 消 費 電 流：200mA(最大)
- 接 地 方 式：マイナス接地
- 使 用 環 境：温度0～+50℃、湿度5～95%(結露状態を除く)
- 外 形 寸 法：140.0(W)×120.0(H)×50.0(D)mm(突起物を除く)
- 適 合 マ ス ト 径：φ40～60mm
- 重 量：約810g(LANケーブルを含む)
- 適 合 規 格：クラスA情報技術装置(VCCI)
- イ ン タ ー フェ ース：状態表示ランプ(PWR<緑>、MODE<緑>、LAN<赤>、
⚡<赤>)、<MODE>ボタン
- 防 水 レ ベ ル：JIS保護等級4相当(防まつ形)

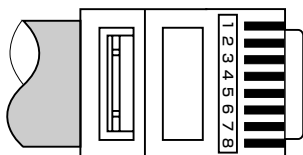
■ アンテナ部(内蔵タイプ：SB-510)※SB-510EAは、各外部アンテナの仕様参照

- ア ン テ ナ 形 式：2素子パターンアンテナ
- ア ン テ ナ 利 得：8.7dBi(2.4GHz帯)
- ア ン テ ナ 指 向 特 性：水平方向：±30°(3dB減衰幅)
垂直方向：±30°(3dB減衰幅)
- イ ン ピ ー ダ ンス：50Ω
- 定 在 波 比：1.6以下

■ 有線部

- 適 用 回 線：LAN
- 通 信 速 度：10/100Mbps(自動切り替え/全二重)
- イ ン タ ー フェ ース：[Ethernet]プラグ(RJ-45型：ケーブル5m)
※IEEE802.3/10BASE-T準拠
※IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
※IEEE802.3af準拠

■ [Ethernet]プラグ仕様



RJ-45型モジュラープラグ

- 1.送信(+)
- 2.送信(-)
- 3.受信(+)
- 4.～5.DC電源(+)
- 6.受信(-)
- 7.～8.Ground

※4.～5.、7.～8.番ピンは、SA-3(付属品)からの電源供給に使用します。

※定格・仕様・外觀等は改良のため予告なく変更する場合があります。

7-6. 定格

■ 無線部

- 国際規格 : IEEE802.11g準拠、IEEE802.11b準拠
- 国内規格 : ARIB STD-T66
- 通信方式 : 単信方式
- 電波方式 : 直接スペクトラム拡散[IEEE802.11b規格]
直交周波数分割多重方式(OFDM)[IEEE802.11g規格]
- 変調方式 : [IEEE802.11b規格]
DBPSK、DQPSK、CCK/バーガー符号
[IEEE802.11g規格]
QPSK、16QAM、64QAM
- 使用周波数範囲 : 2400~2483.5MHz
- チャンネル数 : 全13ch(1ch~13ch)
- インターフェース : SMAアンテナコネクタ(SB-510EAのみ)
- 通信速度 : 自動、「IEEE802.11b規格 : 11/5.5/2/1」Mbps
[IEEE802.11g規格 : 54/48/36/24/18/12/9/6]
Mbps
- セキュリティ : WEP(RC4) : 64(40)/128(104)/152(128)ビット
OCB AES : 128(128)ビット
- 送信出力 : 10mW/MHz以下
- 受信感度 : [IEEE802.11b規格]
-76dBm以下(フレームエラーレート=8%)
[IEEE802.11g規格]
-61dBm以下(フレームエラーレート=10%)
- 復調方式 : [IEEE802.11b規格]
デジタル復調(マッチドフィルター方式)
[IEEE802.11g規格]
OFDM復調
- 最大伝送距離 : 本書3-1章と3-6章を参照

■ 本製品以外との通信について

- ◎2004年8月現在、本製品と無線ブリッジ接続で通信できる弊社製無線LANユニットは、SB-5000とSB-5000PAです。
- ◎SB-120、SB-150、SB-1100、SB-2200の弊社製無線LANユニットは、本製品と通信できません。
- ◎他社製のビル間通信機器とは、通信できません。

7 ご参考に

7-7. 用語解説

Bridge

ブリッジを参照

BSS ID(Basic Service Set-Identifier)

無線LANをMAC層で識別するためのIDです。

DHCPサーバ

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol) は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。

DHCPサーバは、ネットワーク情報として、“IPアドレス”、“デフォルトゲートウェイ”、“ドメイン名”などを管理しています。

DHCPサーバ機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(パソコン)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

ETHERNET

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T、100BASE-TX、10BASE-5、10BASE-2などのタイプがあります。

HTML(Hyper Text Markup Language)

WWWサーバでのドキュメントを記述するための言語で、通常文書の中にタグを埋め込んでいく方式で作成されます。

WWWページを記述する言語として利用されています。

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)

HTMLの転送に使うプロトコルです。WWWブラウザでURLを入力すると、HTTPを使ってWWWサーバからパソコンのWWWブラウザへHTML文書が転送されます。転送された文書は、WWWブラウザによって解釈されて画面に表示します。

HUB

ハブを参照

Internet Explorer

WindowsやMac OSに標準で付属しているブラウザソフトのことです。

IP(Internet Protocol)

インターネットで使われるプロトコルです。

IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルがあり、下位には通信回線寄りのプロトコルが積層されることでインターネットを形成しています。

IPアドレス

TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。

通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。(例：192.168.0.1) また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。アドレス管理機関やプロバイダーに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則にしたがって割り振らなければなりません。

外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。

次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA：10.0.0.0～10.255.255.225

クラスB：172.16.0.0～172.31.255.225

クラスC：192.168.0.0～

192.168.255.225

LAN(Local Area Network)

同一フロアや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

PoE(Power over Ethernet)

Ethernetケーブルを使用して特定のネットワーク機器に電源供給を行う方法です。

電源供給を受けるネットワーク機器は、PoEに対応している必要があります。

RIP(Routing Information Protocol)

ルータ間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。

この情報をもとに、ルータはパケットを正しい相手へ送出します。

RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していません。

7-7. 用語解説(つづき)

SYSLOG

システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。

この機能に対応していると、SYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

TCP/IP

Windowsなど、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。

SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。

Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

TELNET

ほかのパソコンを遠隔操作するためのプロトコルです。

URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。

弊社URLは、<http://www.icom.co.jp/>です。

VLAN(Virtual LAN)

複数のネットワークを、[SSID]や[VLAN ID]を付けてグループ化し、既存のネットワークと独立したグループを構成できる機能です。

本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

サブネットマスク

1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。

あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

スパンニングツリー

ブリッジによってループ状に形成されたLANでパケットが無限に循環するのを防止する機能が備わったネットワークのことです。

ループ状に形成されたLANの検出に使用されるアルゴリズムやループを解除するプロトコルを総称している場合があります。

ネットマスク

サブネットマスクを参照

ハブ(HUB)

本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要な装置です。

10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。

100Mbpsで通信をするときは、カテゴリ-5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

フラッシュメモリ

本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。

ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

ブリッジ

MACアドレスレベルでパケットを中継するネットワーク機器の総称です。

プロトコル

通信で、データの送受信を行うときにしたがるべき手順を定義したものの。

ブロードキャスト

同一ネットワーク内のすべてのハードウェアへパケットを一斉に送信(同報通信)することです。

マルチキャスト

同一ネットワーク内で、複数のハードウェアを指定してパケットを一斉に送信(同報通信)することです。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	003-0806	札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	108-0022	東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331
名古屋営業所	468-0066	名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
この補足説明書は、ファームウェアVer.1.04以降で追加された無線アクセスポイント機能などについての説明です。
この説明書をよくお読みいただき、大切に保管してくださいますようお願い申し上げます。

■「無線LAN設定」画面
〈無線LAN設定〉

- 無線LAN設定
- 無線LAN設定
 - 暗号化設定
 - セキュリティ設定
 - 無線ブリッジ設定

※②～④の欄は、[使用モード]①で「Access Point」を選択したとき、使用できる機能です。

★追加機能以外の説明は、本製品の取扱説明書でご確認ください。
本製品の無線通信に対する基本設定です。

無線LAN設定	
使用モード	① <input checked="" type="radio"/> Wireless Bridge <input type="radio"/> Access Point <input type="radio"/> OFF
SSID	LG ←
ANY接続拒否	② <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
チャンネル	11 (2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	③ なし
11g保護機能	有効
パワーレベル	高
接続端末制限	④ 255
Super Gを使用	しない
長距離通信モードを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

「Access Point」を設定すると、本製品と同じ[SSID]の無線LAN端末と通信できます。

① 使用モード

本製品の無線通信モードを切り替えます。(出荷時の設定：Wireless Bridge)
 ◎「Wireless Bridge」：「ビル間通信(無線ブリッジ)」機能を使用するとき設定します。
 ◎「Access Point」：「ビル間通信(無線ブリッジ)」機能と「無線アクセスポイント」機能を併用して使用するとき設定します。
 ※無線アクセスポイント通信時の見通し距離
 802.11g(2.4GHz)、54Mbps通信時：約30m
 802.11b(2.4GHz)、11Mbps通信時：約70m
 ◎「OFF」：本製品の無線通信機能を停止させるとき設定します。

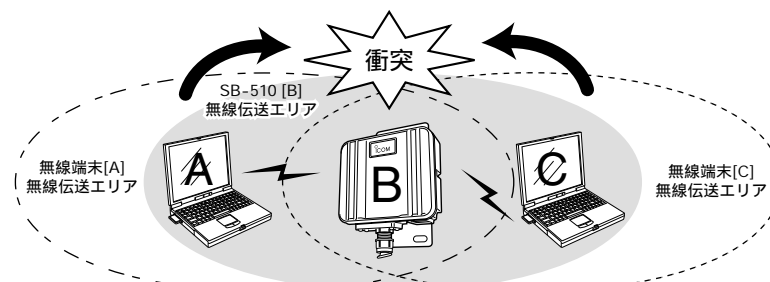
② ANY接続拒否

※ご使用のパソコンにSL-5000、SL-5000XG、SL-5100、SL-5200をインストールしたときは、出荷時から「ANY」モードで動作しています。

「ANY」モード(アクセスポイント自動検索接続機能)で通信する無線LAN端末(弊社製無線LANカード：SL-11やSL-110を除く)からの検索や接続を拒否するかしないかを設定します。(出荷時の設定：しない)
 出荷時の設定では、弊社製無線LANカードを装着するパソコンとの接続が簡単になるように、無線LAN端末からの検索や接続を許可しています。
 この設定を「する」にした場合、「ANY」モードで通信する無線LAN端末が使用する「Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続」や「無線ネット表示に対応する弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティ」に検索されません。

③ Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：なし)
 Rts/Cts(Request to Send/Clear to Send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。
 隠れ端末とは、下図のように、それぞれが本製品[B]と無線通信できても、互いが直接通信できない無線LAN端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。



※説明のため、SB-510を使用し、SA-3を省略しています。

通信の衝突を防止するには、無線LAN端末[A]から送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送エリア内にある無線LAN端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線LAN端末[C]に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線LAN端末[C]は、本製品[B]から受信完了通知(ACK)を受信するまで本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。

■「無線LAN設定」画面〈無線LAN設定〉(つづき)

④ 接続端末制限

本製品に同時接続可能な無線LAN端末の台数を設定します。(出荷時の設定：255)
 設定できる範囲は、「1～255」です。
 ※接続制限を設定すると、本製品1台だけに接続が集中するのを防止(本製品の負荷を分散)できますので、接続集中による通信速度低下を防止できます。

■「暗号化設定」画面
〈暗号化設定〉

- 無線LAN設定
- 無線LAN設定
 - 暗号化設定
 - セキュリティ設定
 - 無線ブリッジ設定

① ネットワーク認証

※弊社製無線LAN機器によっては、「認証モード」と記載されていません。
 ※「共有キー」は、ご使用になる無線LAN機器によっては、同じ意味で「シェアードキー」と記載されています。

無線LANで通信するデータを保護するために、暗号化するための設定です。
 ※WPA-PSK(TKIP/AES)以外の方式については、取扱説明書をご覧ください。

暗号化設定	
ネットワーク認証	① 両対応
暗号化方式	② なし
PSK (Pre-Shared Key)	③ <input type="text"/>
キー更新間隔	④ 1 分
キージェネレータ	<input type="text"/>
キーインデックス	1

[暗号化方式]欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、その暗号化を使用する無線LANからのアクセスに対する認証方式を設定します。(出荷時の設定：両対応)
 ※通信相手とネットワーク認証の設定が異なると通信できません。
 ※「OCB AES 128(128)」設定時は、「オープンシステム」しか設定できません。
 ◎両対応：無線LANのアクセスに対して、「オープンシステム」と「シェアードキー」を自動認識しますので、通信相手間で暗号化鍵(キー)が同じであれば通信できます。
 ◎オープンシステム：無線LANのアクセスに対して認証をしません。
 ◎共有キー：無線LANのアクセスに対して通信相手と同じ暗号化鍵(キー)かどうかを認証します。

WPA-PSK(TKIP/AES)：

この暗号化方式は、「無線LAN設定」画面で、[使用モード]欄を「Access Point」に設定して、無線ブリッジ接続とは併用しないときだけ使用できます。
 ※「無線アクセスポイント」モードで、「ビル間通信(無線ブリッジ)」機能と併用する場合は、「WPA-PSK(TKIP/AES)」暗号化方式を使用できませんので、「WEP(RC4)/OCB AES」暗号化方式でご使用ください。
 ※無線LANの接続形態(使用モード)は、「無線LAN設定」メニューから[無線LAN設定]をクリックして、[無線LAN設定]項目にある[使用モード]欄で設定を確認できます。
 ※「WPA-PSK」は、Windows XP(Service Pack 1)に修正プログラムが適用された無線LAN端末で使用できる共有鍵認証方式です。
 ※暗号化方式は、「TKIP」と「AES」に対応しています。
 ※SL-5200(弊社製無線LANカード)が装着されたWindows XP搭載のパソコンをご使用いただくと、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続から本製品に接続できます。
 ※「TKIP」と「AES」は、互換性がありません。
 ※「WEP(RC4)/OCB AES」とは、互換性がありません。
裏の紙面につづく

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOMは、アイコム株式会社の登録商標です。

アイコム株式会社

本社	547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32	TEL 011-820-3888	大阪営業所	547-0004 大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
北海道営業所	003-0806 札幌市白石区菊水6条2-2-7	TEL 011-820-3888	広島営業所	733-0842 広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
仙台営業所	983-0857 仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211	四国営業所	760-0071 高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
東京営業所	108-0022 東京都港区海岸3-3-18	TEL 03-3455-0331	九州営業所	815-0032 福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211
名古屋営業所	468-0066 名古屋市天白区元八事3-249	TEL 052-832-2525			

■「暗号化設定」画面
 <暗号化設定> (つづき)

- 無線LAN設定
- 無線LAN設定
 - 暗号化設定**
 - セキュリティ設定
 - 無線ブリッジ設定

③ PSK (Pre-Shared Key) ……

暗号化設定	
ネットワーク認証 ①	両対応
暗号化方式 ②	なし
PSK (Pre-Shared Key) ③	<input type="text"/>
キー更新間隔 ④	1分
キージェネレータ	<input type="text"/>
キーインデックス	1

[暗号化方式](②)欄で、「WPA-PSK(TKIP)」,または「WPA-PSK(AES)」を選択したとき、暗号化鍵(キー)を半角英数字で入力します。
 ※同じ暗号化方式を使用する相手と同じ暗号化鍵(キー)を設定してください。
 ※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。
 ※ASCII文字で設定するときは、8~63文字を入力してください。

④ キー更新間隔 ……

※弊社製無線LAN機器によっては、「Re-Key間隔」と記載されていません。

[WPA-PSK(TKIP)],または「WPA-PSK(AES)」方式の暗号化を設定する場合、暗号化鍵(キー)の更新間隔を分単位で指定します。(出荷時の設定：1分)
 設定できる範囲は、「0~1440」です。
 ※「0」を設定した場合は、更新されません。

■ [WPA-PSK]暗号化設定例
 <SB-510/510EA側の設定>

[WPA-PSK(TKIP)]暗号化方式についての設定例を説明します。

<無線LAN端末側の設定>

※Windows XP(Service Pack1)に修正プログラムを適用していただくことで、WPA暗号化認証方式を無線LAN端末側で使用できます。

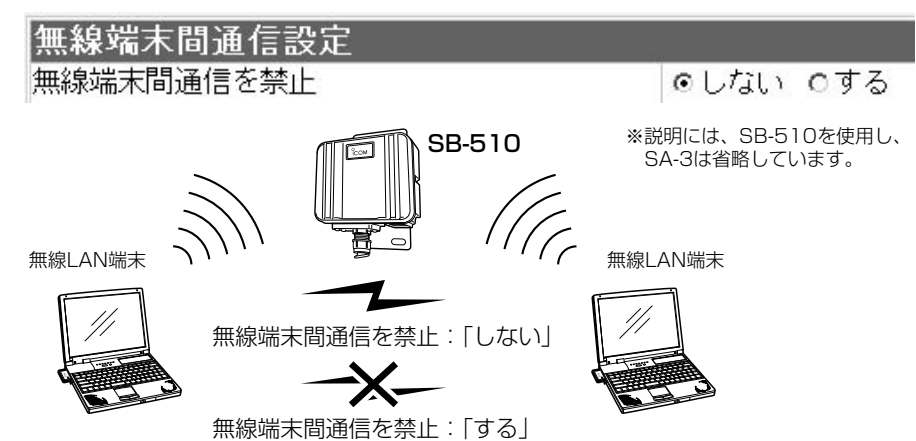
※無線LAN端末は、Windows XP(Service Pack1)に修正プログラムが適用されたもので、接続ツールは、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続をご使用ください。
 ※[WPA-PSK(TKIP/AES)]暗号化に対応する弊社製無線LANカードは、SL-5200だけです。(2004年9月現在)
 SL-5200に付属の設定ユーティリティは、この共有鍵認証方式に対応していませんので、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続をご使用ください。

■「セキュリティ設定」画面
 <無線端末間通信設定>

- 無線LAN設定
- 無線LAN設定
 - 暗号化設定
 - セキュリティ設定**
 - 無線ブリッジ設定

無線端末間通信を禁止 ……

ファームウェアVer.1.04以降で追加された画面です。
 ほかの無線LAN端末からの不正アクセスを防止する設定です。



ほかの無線LAN端末からの不正アクセスを防止するような場合、無線LAN端末どうしが本製品を介して通信することを禁止できます。(出荷時の設定：しない)
 ※この機能は、[IEEE802.11b/g]のいずれかの規格で通信するすべての無線LAN端末が対象です。

<MACアドレスフィルタリング設定>

- 無線LAN設定
- 無線LAN設定
 - 暗号化設定
 - セキュリティ設定**
 - 無線ブリッジ設定

通信を許可する無線端末のMACアドレスを登録することで、通信制限するとき必要な設定です。

MACアドレスフィルタリング設定											
MACアドレスフィルタリングを使用 ①	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する										
登録の追加 ②	<input type="text"/>										
MACアドレス	<input type="text"/>	追加									
現在の登録 ③	<table border="1"> <thead> <tr> <th>登録済みの端末</th> <th>受信中の端末</th> <th>通信状況</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>00-90-C7-33-00-14</td> <td>00-90-C7-33-00-14</td> <td>通信中</td> <td>削除</td> </tr> </tbody> </table>			登録済みの端末	受信中の端末	通信状況		00-90-C7-33-00-14	00-90-C7-33-00-14	通信中	削除
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況									
00-90-C7-33-00-14	00-90-C7-33-00-14	通信中	削除								

① MACアドレスフィルタリングを使用 ……

※弊社製無線LAN機器によっては、「MACアドレスセキュリティ」と記載されています。

本製品に登録されたMACアドレスを持つ無線LAN端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるように「する」か「しない」かを選択します。(出荷時の設定：しない)
 「する」を選択すると、[現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスを持つ無線LANのパソコンからのアクセスを防止します。

② 登録の追加 ……

対象となる無線LANカードのMACアドレスをこの欄に入力して、<追加>をクリックすると、[登録済みの端末]欄に登録されます。
 入力したMACアドレスが[現在の登録]欄に表示されたことを確認します。
 ※入力は半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
 ※最大256台分のMACアドレスを登録できます。
 ※MACアドレスフィルタリングが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスを持つ無線LAN端末とだけ通信できます。
 ※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。(入力例：00-90-c7-33-00-14, 0090c7330014)

③ 現在の登録 ……

本製品と無線で通信している端末の状況や登録済みの無線端末のMACアドレスを表示します。
 登録の削除は、該当する欄に右端に表示された<削除>ボタンをクリックします。
 [受信中の端末]欄に表示されているMACアドレスで登録されていないものは、その欄の右端に<追加>ボタンが表示されますので、それをクリックすると、その無線LAN端末のMACアドレスを登録できます。